

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

国語

科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

使用教科書：（新編論理国語・東京書籍）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 論理の力 広がる風景 【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、文や文章の組み立てや接続について深く学ぶことができる。また、主張とその前提、反証など、情報同士の関係についての理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握しつつ、主張の根拠や論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える学がことの根拠や意味について理解し、学習課題に沿って自分自身との関連について考えをまとめることができる。	・指導事項 ・つながる力 ・論証する力 ・対話とは何か ・世界をつくり替えるために	【知識・技能】 言葉には、それ自体を認識し説明する力があることを理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で使うことで語感を磨いている。また、文や文章の組み立てや接続の効果的な方法について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら、その内容や構成、論理の展開を正確に把握し、論点を明確にしつつ要旨を理解している。また、文章の構成や表現を、書き手の意図との関係の中で多面的・多角的に評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト準2級①～③（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習）	○	○	○	11
B 単元 考える手がかり 【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、文や文章の組み立てや接続について深く学ぶことができる。また、主張とその前提、反証など、情報同士の関係についての理解を深めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握しつつ、主張の根拠や論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して解釈することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の考える学がことの根拠や意味について理解し、学習課題に沿って自分自身との関連について考えをまとめることができる。	・指導事項 ・少女たちの「ひろしま」 ・「ふしぎ」ということ	【知識・技能】 言葉には、それ自体を認識し説明する力があることを理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で使うことで語感を磨いている。また、文や文章の組み立てや接続の効果的な方法について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら、その内容や構成、論理の展開を正確に把握し、論点を明確にしつつ要旨を理解している。また、文章の構成や表現を、書き手の意図との関係の中で多面的・多角的に評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト準2級④～⑥（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習）	○	○	○	12
定期考査			○	○		2

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 国語 科目 国語表現

教科：国語 科目：国語表現 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～4組

使用教科書：（『国語表現』大修館書店）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ活への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語表現 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の想いや考えを広げたり深めたりすることが出来るようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学 期	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領 域				評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読	読					
1 学 期	言葉と出会う 【知識及び技能】 ・表記や語彙に関する基本的な知識・技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・適切な言葉遣いやわかりやすい文で表現できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・言葉に興味をもち、言葉を使って積極的に表現しようとする姿勢。	「言葉と出会う」 ①言葉と表記 ②整った文を書く ③相手に応じた言葉遣い ④わかりやすい文を書く ⑤文のつながり	○	○	○	観察 ワークシートの記述 発表内容	○	○	○	24	
2 学 期	伝える、伝え合う 【知識及び技能】 ・説明のしかたや5W1Hを理解し、正確な文章を書けるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・相手や目的に応じて、伝え合う内容を検討したり、表現を工夫したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・適切な表現で、積極的に伝え合おうとする姿勢。	「伝える、伝え合う」 ①自己紹介ゲーム ②言葉のストレッチ体操 ③絵や写真を見て書く ④マイニュース記事を書く	○	○	○	観察 ワークシートの記述 発表内容	○	○	○	24	
3 学 期	小論文・レポート入門 【知識及び技能】 ・論理の展開や文章の構成について理解し、小論文やレポートを書けるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・伝えたいことを明確にし、構成や表現を検討したり、工夫したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・伝えたいことを、積極的に文章で表現しようとする姿勢。	「小論文・レポート入門」 ①小論文とは何か ②反論を想定して書く ③文章を読み取って書く ④統計資料を読み取って書く ⑤発想を広げて書く ⑥レポートを書く ⑦論文を書くために	○	○	○	観察 ワークシートの記述 発表内容	○	○	○	22	
										70	

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 地歴科 科目 歴史総合

教科：地理歴史 科目：歴史総合 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～6組

使用教科書：（第一学習社 『高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来』）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】日本及び世界の歴史を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の特色や相互の関連を考察し、それを説明したり議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、日本国民としての自覚・世界の多様な生活文化を尊重する態度を養う。

科目 歴史総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代の歴史の変化に関わる意味や意義を時期や年代、推移、比較、現在のつながりに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史的な課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。	よりよい社会の実現を視野に課題を解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 結びつく世界 【知識及び技能】 人類が過去をどのように知り、伝えてきたのか理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「近代化」に関して考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 現代の諸課題の解決に歴史の学びが必要であることを理解する。	・指導事項 アジアの繁栄とヨーロッパの海外進出 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	5
	B 単元 近代ヨーロッパの成立 【知識及び技能】 市民革命により、社会はどのように変わったかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から推論する。 【学びに向かう力、人間性等】 現代と歴史の関連を自覚する。	・指導事項 アメリカ独立革命とフランス革命 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	C 単元 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民化 【知識及び技能】 アジア社会の植民化による欧米・アジア相互の変化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 オスマン帝国の衰退 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	5
2 学 期	D 単元 中国の開港と日本の開国 【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出に我が国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 アヘン戦争と日本開国 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	C 単元 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民化 【知識及び技能】 アジア社会の植民化による欧米・アジア相互の変化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 明治初期の対外関係 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	16
	D 単元 中国の開港と日本の開国 【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出に我が国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 日露戦争と国際関係の変化 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	

3 学 期	<p>Ⅱ単元 明治維新と日本の立憲体制 【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出にアジア諸国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代のアジア諸国に欧米がどう影響を与えたか考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 19世紀後半が近代日本の基礎であることを自覚する。</p>	<p>・指導事項 第1次世界大戦 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物</p>	○	○	○	5
	<p>Ⅲ単元 帝国主義の展開とアジア 【知識及び技能】 列強諸国のアジア分割と日本の対応を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代のアジア諸国に欧米がどう影響を与えたか考察し、表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 20世紀初頭の日本が世界にどのような影響を与えたかを自覚する。</p>	<p>・指導事項 第2次世界大戦 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物</p>	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 数学科 科目 数学A

教科：数学科 科目：数学A 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 1組～ 5組
 使用教科書：（最新数学A（数研出版））

教科 数学科 の目標：
 【知識及び技能】問題を正確に理解し、定義や定理等をもとに式を立てることで適切に計算できる。
 【思考力、判断力、表現力等】公式を暗記して計算するだけでなく、その式の成り立ちについて理解している。
 【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的であり、家庭学習用の課題についても意欲的に取り組んでいる。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、基礎的な知識の習得を目指し、それを活用する力を身に付ける。	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、事象を数学的に考察する能力や、式の成り立ちについて理解し、またそれを説明できる。	場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について、興味・関心を持るとともに、課題に対しても積極的に取り組める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1年次に数学Iで学習した集合についての確認、その要素の個数に関して成立する関係について理解させる。また、事象の数え方について、「樹形図」を用いる方法や、順列 nPr や組合わせ nCr の有用性を理解させるとともに、それを適切に活用できようにする。	【指導事項】 ・場合の数 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3 ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 確率の意味を理解させる。「場合の数」で習得した内容を用い、確率に関する応用的な問題に取り組めるようにする。具体的には「和事象の確率」「余事象の確率」「独立な試行の確率」「反復試行の確率」「条件付き確率」に関する問題について扱えるようにする。	【指導事項】 ・確率 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3 ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
2 学期	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 中学時代に学習した図形についての復習と、その応用例の定理について考えさせる。	【指導事項】 ・平面図形 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3 ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第2章 図形の性質 第2節 空間図形 平面図形の応用から空間図形について考察できるようにする。また、多面体の性質についての理解を深めさせる。 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 倍数の判定法について一般的な方法や、素因数分解、最大公約数・最小公倍数についての性質を考えさせる。また、商と余りの関係について理解させ、問題を解く上で活用できるようにする。	【指導事項】 ・空間図形 ・約数と倍数 【教材】 教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3 ROUND数学A」	【知識・技能】 授業内での発問 課題プリント 【思考・判断・表現】 定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	

			○	○		1	
3 学 期	<p>第3章 整数の性質</p> <p>第2節 ユークリッドの互除法 ユークリッドの互除法を用いて最大公約数を求められるようにするだけでなく、そのメカニズムを理解し、説明できるようにする。また、互除法の計算を逆にたどることで1次不定方程式の整数解が1つ得られることを理解させる。</p> <p>第3節 整数の性質の活用 有理数の小数表現の仕方、n進法への変換方法について理解させ、それを活用できるようにする。</p>	<p>【指導事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ユークリッドの互除法 整数の性質の活用 <p>【教材】</p> <p>教科書：数研出版「最新数学A」 補助教材：数研出版「3ROUND数学A」</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>授業内での発問 課題プリント</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>定期考査 知識の有無に関わらず、問の本質を見抜けているかどうか 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内での発問 課題プリント 理解できなかったとき質問が出来る</p>	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
						合計	
						70	

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 数学科 科目 数学Ⅱ

教科：数学科 科目：数学Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

使用教科書：（最新数学Ⅱ（数研出版））

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】問題を正確に理解し、定義や定理等をもとに式を立てることで適切に計算できる。

【思考力、判断力、表現力等】公式を暗記して計算するだけでなく、その式の成り立ちについて理解している。

【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的であり、家庭学習用の課題についても意欲的に取り組んでいる。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
式と証明、高次方程式、図形と方程式について、基礎的な知識の習得を目指し、それを活用する力を身に付ける。	式と証明、高次方程式、図形と方程式について、事象を数学的に考察する能力や、式の成り立ちについて理解し、またそれを説明できる。	式と証明、高次方程式、図形と方程式について、興味・関心をもてるとともに、課題に対しても積極的に取り組める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	式と証明 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 整式の乗法・除法と分数式 1 3次の乗法公式と因数分解 2 二項定理 研究/(a+b+c)nの展開式の係数 3 整式の除法 4 分数式の計算 第2節 式と証明 1 恒等式	【関】 ・複雑な式の因数分解に取り組もうとする。 ・恒等式の係数を決定する際に、数値代入法と係数比較法とを比較して、考察しようとする。 【考】 ・整式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。 ・条件式を利用し、等式証明ができる。 【技】 ・分数式の計算の結果を、既約分数式または正式に表すことができる。 ・不等式の証明に実数の平方の性質を利用できるように式変形を考えることができる。 【知】 ・3次の因数分解の公式を理解し、それらを用いて因数分解することができる。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	・式と証明（続） ・複素数と方程式 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	第1章 第2節 2 等式の証明 3 不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と方程式 1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係	【関】 ・方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。 【考】 ・平方根を負の数にまで拡張することができる。 【技】 ・複素数の除法では、分母と共役な複素数を分母と分子に掛ければよいことを理解している。 【知】 ・複素数の四則計算ができる。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
2 学 期	・複素数と方程式（続）	第2章 第2節 剰余の定理と因数定理 1 剰余の定理 2 因数定理 3 高次方程式の解法	【関】 ・2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 【考】 ・整式P(x)がx-kで割り切れることを式で表現することができる。 【技】 ・対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。 【知】 ・解と係数の関係を使って、対称式の値を求めることができる。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	・図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第3章 第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直	【関】 ・数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の問題を考察しようとする。 【考】 ・直線がx, yの1次方程式で表されることを理解している。 【技】 ・2直線の垂直条件を理解して、それを利用できる。 【知】 ・座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。	○	○	○	13

	定期考査			○	○		1
3 学 期	・図形と方程式(続)	第3章 第2節 円、軌跡と領域 5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡 8 不等式の表す領域 9 連立不等式と領域	【関】 ・ x, y の2次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 【考】 ・円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察することができる。 【技】 ・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 【知】 ・連立不等式の表す領域を図示することができる。			○	16
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科 科目：化学基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～5組

使用教科書：（化基104-903 改訂版 新編 化学基礎（数研出版））

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。
- 【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質と その変化について理解するとともに、科学的に 探究するために必要な観察、実験などに 関する基本的な技能を身に付けている。	身近な物質とその変化から問題を見だし、 探究する過程を通して、化学的に正しく判断 し、的確に表現できる。	物質とその変化への関心を高め、それらを積極 的に探究しようとする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
序章 化学の特徴 【知識及び技能】 化学変化を利用し、つくられる 物質の種類や役割を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 物質のはたらきの有用性を利用し、 社会や日常で活用される方法 や役割について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 日常生活や社会を支える物質の 利用とその製造の例を通して、化 学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・オリエンテーション ・金属やプラスチックなど生活に 根付く物質がどのように作られて いるかに着目し、その利用法や物 質にはたらく作用を中心に、興味 を持たせる。 教材【教科書】	【知識・技能】 金属・プラスチックの製造や再利用、洗剤 や食品添加物の有用性と危険性といった知識 について身に付けており、物理的性質・化学 的性質を調べることができる。 【思考・判断・表現】 物質のはたらきの有用性や危険性を適切な 評価に基づき、化学が果たしている役割につ いて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活を支える物質に関心を持ち、化学 が社会や生活に果たしている役割について意 欲的に探究しようとしている。	○	○	○	2
第1編 物質の構成と化学結合 1章 物質の構成 第1節 混合物と純物質 第2節 物質とその成分 第3節 物質の三態と熱運動 【知識及び技能】 物質の分離・精製方法、物質の 三態と熱運動について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物質の分離・精製方法や単体や 化合物、混合物について考える。 物理変化と化学変化の違いにつ いて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 物質の構造や性質、粒子間には たらく力に関する事象を通して、 化学に対する興味・関心を高め る。	指導事項 ・混合物を分離・精製する様々な 方法について、実験動画を用いる ことで、その仕組みと注意点を理 解させる。 ・物質が原子からできていること から、物質の構成粒子やその作用 について取り扱い、物質の状態に よって変わる粒子の在り方をイ メージできるよう可視化する。 教材【教科書・ワーク・ワーク シート】	【知識・技能】 混合物の分離・精製に際し、適切な方法を 選択することができる。 物質は種々の元素から成り立っており、そ れらの元素は元素記号を用いて表されること を理解している。 化学的に探究する方法を理解するとともに 粒子の熱運動と三態との関係を理解し、物質 についての微視的な見方や考え方を身に付け ている。 【思考・判断・表現】 単体や化合物、混合物の違いについて説明 することができる。 同素体とは何かを説明できる。 物質の状態変化から、粒子の熱運動と粒子 間に働く力を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構造や性質、粒子に働く力に関心を 持ち、意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○	○	1
第1編 物質の構成と化学結合 2章 物質の構成粒子 第1節 原子とその構造 第2節 イオン 第3節 元素の周期表 3章 粒子の結合 第1節 イオン結合とイオンから なる物質 第2節 分子と共有結合 【知識及び技能】 原子の構造や電子配置について 理解する。 粒子の結合や物質の基本的な性 質を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な結合で構成される物質 を、その結合の種類と関連付け て考える。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な例から物質が様々な構成 からなることを通して、化学に対 する興味・関心を高める。	指導事項 ・原子の構造について理解すると ともに、電子殻と電子配置につ いて理解し、価電子の重要性を認識 させる。 ・3章では多くの結合が学習事項 としてあり、内容が定着しにくい 可能性がある。よって繰り返し時 間をかけることで本学習の定着を 図るとともに、結合を含めた結晶 の性質などを学ぶ。 教材【教科書・ワーク・ワーク シート】	【知識・技能】 原子の構成粒子について理解している。 金属・非金属元素などの分布および同族元 素について理解している。 物質を構成する粒子の結合について、基本 的な概念や原理・法則を理解し、身に付けて いる。 【思考・判断・表現】 イオンのなりやすさについてイオン化エネ ルギーや電子親和力の値の大小と関連させ て考えることができる。 イオン結合、金属結合、共有結合でできた 物質について、その性質を結合の種類と関連 付けて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な物質が原子、分子、イオンなどの構 成粒子からなっていることを探究しようとする。	○	○	○	16
定期考査			○	○	○	1

2 学 期	<p>第1編 物質の構成と化学結合</p> <p>3章 粒子の結合</p> <p>第3節 共有結合の結晶</p> <p>第4節 金属結合と金属</p> <p>第2編 物質の変化</p> <p>1章 物質と化学反応式</p> <p>第1節 原子量・分子量・式量</p> <p>第2節 物質質量</p> <p>第3節 溶液の濃度</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>粒子の結合や物質の基本的な性質を学ぶ。</p> <p>原子量・物質質量の概念を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>様々な結合で構成される物質を、その結合の種類と関連付けて考える。</p> <p>モル質量の概念を用い、粒子の数・質量と物質質量に関する計算をする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>身近な例から物質が様々な構成からなることを通して、化学に対する興味・関心を高める。</p> <p>物質質量の概念に興味を持ち、粒子の数・質量・気体の体積の関係について意欲的に学ぶ。</p>	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各結合の性質について学ぶ。 ・原子量・分子量・式量・物質質量の概念、考え方を学ぶ。特に物質質量は、化学を扱ううえで不可欠な事項であることから、生徒全員に身に付けさせる。 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>原子量、分子量、式量と物質質量の知識を身に付けている。</p> <p>物質質量と粒子の数、質量、気体の体積を相互に変換できる。</p> <p>質量パーセント濃度やモル濃度の定義を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>金属特有の性質が自由電子によるものであることを理解し、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。</p> <p>物質質量を用いた基本的な計算を習得することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>代表的な物質の原子量・分子量・式量などの物質質量の基本事項や、濃度との関係を関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	<p>第2編 物質の変化</p> <p>1章 物質と化学反応式</p> <p>第4節 化学反応式と物質質量</p> <p>2章 酸と塩基の反応</p> <p>第1節 酸・塩基</p> <p>第2節 水の電離と水溶液のpH</p> <p>第3節 中和反応と塩</p> <p>第4節 中和滴定</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>物質質量や式量等、酸・塩基の定義の知識を学ぶとともに、実験から実験器具の取り扱いができ、表やグラフの作成の完成を目指す。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>式量や物質質量を化学反応式で表し、化学反応の量的関係を考える。また、中和の量的関係を数式で表せることを、実験により理解させ、計算方法も体得させる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>化学変化や酸・塩基の中和反応を日常生活と関連させることで、化学に対する興味・関心を高める。</p>	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応式を書くこと、量的な関係を理解できるようにする。 ・中和の量的関係を理解するとともに、滴定操作により未知の濃度の酸や塩基の濃度を求めることができることを実験的に理解させる。 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>化学反応式を用いて量的な計算をすることができる。</p> <p>酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解している。</p> <p>実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係を用いて、水酸化物イオン濃度からpHを求めることができる。</p> <p>酸・塩基の定義を理解し、酸・塩基反応および中和反応を考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>酸、塩基に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。</p>	○	○	○	15
定期考査			○	○	○	1	
3 学 期	<p>第2編 物質の変化</p> <p>3章 酸化還元反応</p> <p>第1節 酸化と還元</p> <p>第2節 酸化剤と還元剤</p> <p>第3節 金属の酸化還元反応</p> <p>第4節 酸化還元反応の利用</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>イオン化傾向による反応性の違い等から、酸化還元反応を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>酸化還元反応の酸化数等を考え、まとめることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>日常生活の中にある酸化還元反応に対して関心をもち、意欲的に学ぶ。</p>	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・酸化還元反応における電子のやり取りを可視化するため、酸化数を導入する。同時に金属のイオン化傾向から、電池の原理は酸化還元に基づくものであることを確認する。 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、身近に酸化還元反応が利用されていることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>燃焼、金属の溶解の利用に興味をもち、それらの共通性を身近な現象と関連付けて意欲的に探究する。</p>	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
						合計	
						70	

高等学校 令和8年度（2学年用）

教科 理科

科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組・6組

使用教科書：（東京書籍 生物基礎（生基002-901））

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	・観察、実験などを行い、日常生活や社会から問題を見出し、研究する過程を通して、生物学的に正しく判断し、的確に表現する力を身に付ける。	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物の共通性と多様性を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物の多様性 ・生物の多様性は進化の結果、生じたものであることを理解させる。 2節 生物の共通性 ・すべての生物には「細胞からできている」「DNAをもつ」「エネルギーを利用する」「自分と同じ構造をもつ個体をつくる」「体内の状態を一定に保つ」という共通性のみられることを見出させる。 3節 細胞の特徴 ・すべての細胞は細胞膜に包まれた構造とDNAをもつことや、真核細胞は核や複雑な細胞小器官をもち、原核細胞はそれらをもたないこと、生物は細胞の種類で真核生物と原核生物に分けられることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物の共通性と多様性について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8
1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物とエネルギーを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生体とATP ・生物は、代謝によって生命活動に必要なエネルギーを得ていることを理解させる。 ・生体内でのエネルギーの受け渡しには、ATPが用いられることを理解させる。 2節 生体内の化学反応 ・酵素の主成分はタンパク質で、基質特異性をもつ触媒としてはたらくことを理解させる。 3節 呼吸と光合成 ・呼吸では、酸素を用いて有機物を分解し、化学エネルギーを取り出していることを理解させる。 ・光合成では、光エネルギーを化学エネルギーに変換し、この化学エネルギーを利用して無機物から有機物を合成していることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物とエネルギーについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8
定期考査			○	○		1
1学期 2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報を担う物質としてのDNAを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝子とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物と遺伝子 ・生物の形質は、それぞれの生物がもつ遺伝情報によって決まることを理解させる。 ・遺伝情報を担うのが遺伝子であり、遺伝子の本体はDNAであるということを理解させる。 2節 DNAの構造 ・DNAは、塩基・糖・リン酸からなるヌクレオチドが繰り返して並んでできていることを理解させる。 ・4種類のヌクレオチドのうち特定の塩基どうしが結合して、DNAは二重らせん構造となることを理解させる。 3節 DNAの複製と分配 ・DNAの複製では、複製前の2本の鎖が分離し、それぞれ鋳型となって新しい鎖が合成され2本のDNAになることを理解させる。 ・複製は細胞周期のS期に起こることを理解させる。	【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とDNAについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とDNAに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8

<p>2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質</p> <p>【知識及び技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の事を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報とタンパク質の合成との関係を見だし表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝情報とタンパク質合成に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 タンパク質 ・タンパク質は、生物のさまざまな形質や生命活動にかかわっているという事を理解させる。 ・これらのタンパク質の情報は遺伝子によって定められていることを理解させる。</p> <p>2節 DNAとタンパク質の合成 ・DNAの遺伝情報をもとにして、転写・翻訳という過程を経て、タンパク質が合成されるという事を理解させる。</p> <p>3節 細胞分化と遺伝子 ・個体を構成する細胞は、同一の遺伝情報をもつが、それぞれの細胞で発現する遺伝子は、その細胞の機能により異なることを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とタンパク質の合成について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とタンパク質の合成に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	8
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>5編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達</p> <p>【知識及び技能】 ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・神経系と内分泌系による調節について、観察、実験などを通して探究し、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・情報の伝達に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 体内環境 ・細胞を取り巻く環境を体内環境と言ひ、ヒトの身体は恒常性によって体内環境が維持されていることを理解させる。</p> <p>2節 神経系による情報伝達 ・神経系は、交感神経及び副交感神経を介した情報伝達により、器官の機能を調節し、体内環境の維持に関わっているという事を理解させる。</p> <p>3節 ホルモンによる情報伝達 ・内分泌系では、ホルモンが標的の器官に作用し、各器官を調節することで体内環境を維持しているという事を理解させる。</p> <p>4節 血糖濃度の調節 ・血糖濃度は、自律神経系と内分泌系が強調してはたらくことで調節されているという事を理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・情報の伝達について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報の伝達に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>				10
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>2学期 5編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき</p> <p>【知識及び技能】 ・免疫について、免疫のはたらきを身に付ける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 ・免疫について、観察、実験などを通して探究し、異物を排除する防御機構が備わっていることを見だし表現する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ・免疫のはたらきに関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 免疫のしくみ ・食細胞などによる自然免疫やリンパ球による適応免疫が、病原体の排除にはたらくことを理解させる。</p> <p>2節 免疫記憶 ・B細胞やT細胞は、体内に侵入した抗原の情報を記憶して、同種の抗原が再び侵入しても、病気が発症する前に抗原を排除することができるという事を理解させる。</p> <p>3節 免疫とさまざまな疾患 ・免疫が正常にはたらかないと、病原体以外の抗原に過敏に反応するアレルギーや、自己の細胞を抗原として認識してしまう自己免疫疾患などを発症するという事を理解させる。</p> <p>・AIDSはウイルスにより免疫機能がはたらかなくなる病気であることを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ・免疫について、免疫の働きの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・免疫の働きについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・免疫の働きに関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>				10
<p>定期考査</p>			○	○		1

<p>4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移</p> <p>【知識及び技能】 ・植生と遷移について、植生と遷移のものを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・植生と遷移について、観察、実験などを通して探究し、遷移の要因を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・植生と遷移に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 植生とその環境 ・植生は多様な環境をつくり、さまざまな生物の営みを支えていることを理解させる。 ・植生による環境形成作用で、光環境や土壌が変化することを理解させる。 2節 植生の遷移 ・植生は常に一定ではなく、生物などのはたらきにより環境が変化すると、優占する植物の種が置き換わっていくことを理解させる。 3節 遷移とバイオーム ・世界にはさまざまな植生があり、遷移が進みつつも、最終的には気候に応じた植生になることを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ・植生と遷移について、植生と遷移の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・植生と遷移について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・植生と遷移に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>				6
<p>3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき</p> <p>【知識及び技能】 ・免疫について、免疫のはたらきのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・免疫について、観察、実験などを通して探究し、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・免疫のはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 免疫のしくみ ・食細胞などによる自然免疫やリンパ球による適応免疫が、病原体の排除にはたらいていることを理解させる。 2節 免疫記憶 ・B細胞やT細胞は、体内に侵入した抗原の情報を記憶して、同種の抗原が再び侵入しても、病気が発症する前に抗原を排除することができるということを理解させる。 3節 免疫とさまざまな疾患 ・免疫が正常にはたらかないと、病原体以外の抗原に過敏に反応するアレルギーや、自己の細胞を抗原として認識してしまう自己免疫疾患などを発症するということを理解させる。 ・AIDSはウイルスにより免疫機能がはたらかなくなる病気であることを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ・免疫について、免疫の働きの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・免疫の働きについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・免疫の働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>				7
<p>3学期 定期考査</p>						1
						合計
						70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 大修館 現代高等学校 保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 基本的な動作の習得と競技の方法を理論を通じて身に付ける
- 【思考力、判断力、表現力等】 競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする
- 【学びに向かう力、人間性等】 得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける。	それぞれの競技を実践する中で、何が必要何が足りないのかを常に考え行動できるようにする。	生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り 体づくり運動(12月まで) 体育理論	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	5
	ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ゴール型：バスケットボール ネット型対人：テニス ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	13
	ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ゴール型：バスケットボール ネット型対人：テニス ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	12
2 学 期	陸上競技では、個人の目標に向かって基本動作を習得し、記録に挑戦する。水泳では、基本動作の習得、4泳法の習得を目標に展開する。さらに、個人の記録にも挑戦できるように活動する。	陸上競技（ハードル・高跳び） 水泳	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	14
	ゴール型では安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができる。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。ベース型では、個々の役割について理解し連携を図ることができるように展開すること。	ゴール型：バスケットボール ネット型対人：テニス ベースボール型：ソフトボール	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 理論の理解と応用 【思考・判断・表現力等】ゲームの運営 理論の工夫と発表 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	16
3 学 期	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を目標設定をして走り通す。	陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の目標の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	8
	自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走りとおし、タイムを短縮したり競争したりできるようにする。	個人 陸上競技(長距離)	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の目標の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

保健体育

科目 体育

教科：保健体育

科目：体育

単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 6 組

使用教科書：（ 大修館 現代高等学校 保健体育 ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 基本的な動作の習得と協議の方法を理論を通じて身に付ける
- 【思考力、判断力、表現力等】 競技の特性を理解したうえで、ゲームの運営を含め自己の役割を見出すことの出来るようにする
- 【学びに向かう力、人間性等】 得意不得意に関わらず、積極的に取り組む姿勢を養う

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
それぞれの競技の特性を理解し、基礎的動作の習得とゲームや試合の攻防を楽しむ態度を身に付ける。	それぞれの競技を実践する中で、何が必要何が足りないのかを常に考え行動できるようにする。	生涯体育に結び付くように、様々な種目を通じて自己の目標を設定し、積極的に取り組めるようにする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	記録の向上や勝敗を競う楽しさ、喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高める。記録に挑戦する気持ちと、安全性に配慮することを身に付ける。	オリエンテーション 基礎体力作り 体づくり運動(12月まで) ニュースポーツ	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	4	
	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践①	【知識・技能】基本的な動作の習得、各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7	
	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践① ニュースポーツの実践②	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	5	
2 学期	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践②	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 ゲームの運営 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	6	
	多種多様にあるバラスポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践、体験する。	バラスポーツの実践	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック、理論の理解と応用 【思考・判断・表現力等】ゲームの運営 理論の工夫と発表 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	7	
3 学期	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。	ニュースポーツの実践③	【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の組票の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	4	
	多種多様にあるニュースポーツをグループ毎にICTを活用し調べる。各担当を決め企画、運営、実践する。		【知識・技能】基本的な動作の習得 各種目の理解と動作のチェック 【思考・判断・表現力等】補強運動の実践と工夫 自己の目標の設定 【学びに向かう力、人間性等】種目への積極的な参加 補強運動の実践からの工夫	○	○	○	4	
							合計	35

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

使用教科書：（大修館書店 現代高等保健体育）

教科 保健 の目標：

【知識及び技能】健康で安全な生活を送るために必要な知識と取り組みを理解させる

【思考力、判断力、表現力等】自分自身の健康と周りの人々の健康について具体的に課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し、行動できるようにする

【学びに向かう力、人間性等】最新の知識をアップデートし、正しい判断と行動ができるようにする

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
交通事故の現状と応急処置の方法、家族計画と妊娠出産のメカニズム、環境問題についての知識と技能を養う。	それぞれの単元の「考えてみよう」のワークを利用し、自己表現ができるようにする。	新しい知識と将来を見据えた問題点を想像し解決する力を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<p>交通時とその他の現状 様々な場面で起こる事故とその被害の実態について理解する。 交通事故の要因 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを理解する。</p>	<p>・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>【知識・技能】交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。</p> <p>【思考・判断・表現】安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	3
	<p>応急手当の方法 応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。 応急処置について 救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、適切な利用方法について理解する。</p>	<p>適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>【知識・技能】応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>【思考・判断・表現】応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p>	○	○	○	4
	<p>思春期と健康 思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。 思春期の健康課題について 思春期に起こりやすい健康課題について理解する。</p>	<p>思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>【知識・技能】生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <p>【思考・判断・表現】思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。</p> <p>【主体的に取り組む態度】結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。</p>	○	○	○	3
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科：外国語 科目：英語コミュニケーションⅡ 単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

使用教科書：（数研出版 COMET English Communication II ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識及び技能を身に付ける。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書						
Lesson1 Places Worth Visiting Lesson2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer 【知識及び技能】 「行きたい場所」を表現するときに使える基本的な単語を理解している。また、want+人+to doやask+人+to doの用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「行きたい場所」「自分の好きな写真」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「行きたい場所」について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたりしている。 ・岩合光昭さんの考え方や、写真について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたりしている。	・指導事項 want+人+to do 疑問詞+ to不定詞 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 「want+人+ to do」「疑問詞+to不定詞」を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「様々な名所」「写真」について関心を持ち、積極的に発言しようとしてたり、聞こうとしたりした。	○	○	○	○	24
定期考査								○	○	○	○	1
Lesson3 The Haka Lesson4 Digital Detox 【知識及び技能】 ・世界の文化に関する単語を理解している。また、分詞の用法を理解している。 ・デジタル機器に関する単語を理解している、またif節・疑問詞節の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「世界の文化」「デジタル機器との関わり方」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「世界の文化」「デジタル機器」について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたり、自分の考えを持つことができる。	・指導事項 分詞 if節・疑問詞節 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	【知識及び技能】 単元で扱う文法を理解できた。 【思考力、判断力、表現力等】 a. 本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができた。 b. 本文各Partの内容に関連して、自分の意見を簡潔に話す/書くことができた。 c. 「分詞」「if節・疑問詞節」を用いて、正しい文を書くことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 「写真」「世界の文化」について関心を持ち、積極的に発言しようとしてたり、聞こうとしたりした。	○	○	○	○	27
定期考査								○	○	○	○	1

高等学校 令和8年度 (2学年用) 教科

外国語 科目 論理・表現 I

教科：外国語

科目：論理・表現 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組～ 6 組

使用教科書：(開隆堂 REVISED APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I)

教科 外国語

の目標：

- 【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 論理・表現 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高校英語の学習に必要な英文法の基礎を体系的に学習し、併せてコミュニケーションのもとになる読む・聞くの力を伸ばしていく。	英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにするために、グループワークなどを利用して実践的な英語力を伸ばしていく。	積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てるため、生徒の関心の高い題材を多用し自ら話したくなる学習環境を整える。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
1 学 期	単元 Lesson 1.2 【知識及び技能】 基本時制（現在・過去・進行形）、 未来形 【思考力、判断力、表現力等】 基本時制と未来形を使って、身近な 出来事や、自分の考えなどを整理し て、相手に伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に会話を続けようとし、相手 の話す内容にきちんと耳を傾けたり している。	・指導事項 現在形・現在進行形・過去形・過 去進行形・未来形を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	12
	定期考査						○	○	○	1	
	単元 Lesson3.4.5 【知識及び技能】 助動詞・完了形・受動態 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・完了形・受動態を使って、 経験や好きなものについての紹介を 伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな日本の食べ物について、グ ループでの話し合いを通して自分た ちの考えをまとめ、それを積極的に 伝えようとしている。	・指導事項 助動詞・完了形・受動態を用いた 表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	14
定期考査							○	○	○	1	
2 学 期	単元 Lesson6.7.8 【知識及び技能】 比較級・最上級・同等比較・倍数 比較・動名詞・to不定詞の名詞的 用法 【思考力、判断力、表現力等】 比較の仕方と表現方法の知識の育 成、動名詞とto不定詞の名詞的用法 を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適 な表現方法を見つけ、相手に伝え合 うことができる。	・指導事項 比較級・最上級・同等比較・倍数 比較・動名詞・to不定詞の名詞的 用法 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	14
	定期考査						○	○	○	1	
	単元 Lesson9.10.11 【知識及び技能】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 【思考力、判断力、表現力等】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞を 理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適 な表現方法を見つけ、相手に伝え合 うことができる。	・指導事項 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	14
定期考査							○	○	○	1	

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

外国語 科目 論理・表現 I

教科：外国語

科目：論理・表現 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 4 組

使用教科書：（開隆堂 Revised APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I）

教科 外国語

の目標：

【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 論理・表現 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高校英語の学習に必要な英文法の基礎を体系的に学習し、併せてコミュニケーションのもとになる読む・聞くの力を伸ばしていく。	英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにするために、グループワークなどを利用し実践的な英語力を伸ばしていく。	積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てるため、生徒の関心の高い題材を多用し自ら話したくなる学習環境を整える。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 〔や〕	話 〔発〕	書					
1 学 期	単元 Lesson 1.2 【知識及び技能】 基本時制（現在・過去・進行形）、未来形 【思考力、判断力、表現力等】 基本時制と未来形を使って、身近な出来事や、自分の考えなどを整理して、相手に伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に会話を続けようとし、相手の話す内容にきちんと耳を傾けたりしている。	・指導事項 現在形・現在進行形・過去形・過去進行形・未来形を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	12
	単元 Lesson3.4.5 【知識及び技能】 助動詞・完了形・受動態 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・完了形・受動態を使って、経験や好きなものについての紹介を伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな日本の食べ物について、グループでの話し合いを通して自分たちの考えをまとめ、それを積極的に伝えようとしている。	・指導事項 助動詞・完了形・受動態を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	14
	定期考査							○	○	○	1
2 学 期	単元 Lesson6.7.8 【知識及び技能】 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 【思考力、判断力、表現力等】 比較の仕方と表現方法の知識の育成、動名詞とto不定詞の名詞的用法を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な表現方法を見つけ、相手に伝え合うことができる。	・指導事項 比較級・最上級・同等比較・倍数比較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	14
	定期考査							○	○	○	

高等学校 令和8年度(2学年)教科

芸術 科目 美術 I

教科: 芸術

科目: 美術 I

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 5 組 6 組

使用教科書: (『 美術1 』(光村図書))

教科 芸術

の目標:

- 【知識及び技能】 美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に取り組む。
- 【思考力、判断力、表現力等】 感性や創造力を働かせ、自然、自己、社会などを深く見詰め、主題を生成し表現方法を工夫し構想を練る。
- 【学びに向かう力、人間性等】 美術作品の表現の工夫や豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化の理解を深め、多様な視点から取り組

科目 美術 I

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に取り組む。	感性や創造力を働かせ、自然、自己、社会などを深く見詰め、主題を生成し表現方法を工夫し構想を練る。	美術作品の表現の工夫や豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、美術文化の理解を深め、多様な視点から取り組む。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		絵 ・ 彫	デ ザ イ ン	映 画						
<p>●美術 I 授業の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束事や注意点、授業予定を理解する。 <p>●鉛筆素描「基本形を描く」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆素描の基礎を学ぶ。 ・空間表現や光の設定を意識し、立体感・質感の表現を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席決め。 ・授業時の決まりと授業計画、注意点を理解する。 ・ケント紙と画用紙の種類、裏表など理解する。 ・鉛筆の種類を理解し、濃淡による表現(グラデーション)をハッチングと塗り込みで練習する。 ・立方体、円筒形、球体を描く。 ・輪郭だけではなく中の形、光と影を意識する。 	○	○		○	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静物デッサンなどでは複雑な形を単純化し、基本的な形に整理することが大切であることを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次元の空間を2次元の画面に表現するための工夫ができる。 ・描写するものに合った構図や、形の捉え方を理解し表現することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現方法を工夫し追究する姿勢を持って取り組んでいる。 	○	○	○	4
<p>●デザイン基礎「色彩」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクリルガッシュとその使用方法を理解する。 ・色の三属性(色相、明度、彩度)を理解する。 ・色のバリエーション(純色、清色、濁色)を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクリルガッシュの特性を理解する。 ・基本的な色彩、赤、青、緑、黄でマンセル色相環を描く。 ・色の三要素(・明度・彩度・色相)を学ぶ。 ・PUSH-UPのカラーを学び、自分の好きな色相でそのグラデーションを描く。 	○	○	○	○	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート上に規則的で美しい明暗階調を作成できている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの色彩の特徴を理解し、色彩の見方や感じ方を深めている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に色彩の特徴を理解しようとしている。 	○	○	○	8
<p>●風景を描く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心に残っている情景や目の前の風景から感じ取った印象から画面を構想する。 ・風景から感じ取った印象を形や色に置き換え、再構成して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「風景を描く」から身近なものを描くことに感心を持つ。 ・自分が描きたい風景とは何か、資料を収集し、アイデアスケッチを行う。 ・下書きする。 ・アクリル絵の具で着彩を行う。 ・油絵具のような深みのある発色にしたため、下塗りを補色系の色彩を使用するなど工夫する。 ・大まかに色をのせる。 ・色を重ね、影を描き形を起こす。 ・遠近感を捉えて描きこむ。 	○	○	○	○	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の描きたいと感じた風景には、自分の内面が介在していることを認識し、形や色、質感などが感情にもたらす効果を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や通学路、家の近所など身近な場所に自分がどこに心動かされ、何を表したいのか考え、工夫して表現する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に身近な風景を見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。 ・意欲的に取り組んだか。 ・粘り強い制作態度が取り組めたか。 	○	○	○	16
<p>●鉛筆素描「ワイン瓶を描く」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瓶が透けて見える姿や瓶に写り込んでいる様子などしっかり観察する力と描写力を身に付ける。 ・目線の高さに消失点を置き、遠近感のあるパースを理解する。 ・光の方向性と影の傾き、陰影を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「鉛筆・BOOK」から鉛筆デッサンの準備を行う。 ・画面に中心線を引き、位置関係を図りながら、画用紙に対するモチーフの大きさを考え、構図を決める。 ・光の方向を捉えて細部にこだわらず大まかな陰影を付ける。 ・質感を捉えて描き進める。 ・透明感の表現を練り消しゴムや角を尖らせた消しゴムで消してハイライトを描きこむ。 ・鉛筆の硬さや濃さ、タッチの強弱などで硬さや柔らかさなどの質感を描きわける。 	○	○	○	○	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色、質感、量感などを鉛筆で表現する工夫をして創造的にあらわしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形態、バランスを観察。輪郭だけではなく、瓶の中の形を意識して表現しようとしている。 ・立体感、質感が出てくるように鉛筆で描きこみ、消したり描き加えるなど何度も試行錯誤し工夫している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に描画材料の特徴を理解し、表現する力を高めようとしている。 ・より良い作品を作るために試行錯誤を重ねる姿勢を持つことができる。 	○	○	○	8

	<p>●樹脂粘土による塑像制作 B「自分の心を支える親しみのある立体作品の制作」</p> <p>・立体作品は絵画などの平面作品とは異なり、視覚的なイメージがかき立てられ、空間の印象が大きく変わること理解する。</p> <p>・人々の信仰の対象となってきた仏像などの塑像を鑑賞し、現在の自分の心を支えてくれるような立体を創造する力を養う。</p> <p>・物語からできあがるキャラクターの造形的な特徴や性格などを考え、形や色彩の効果を生かして目的に合った表現ができる。</p>	<p>・命を吹き込むアートの力は、日常生活で豊かな生命力を感じ取ることから始まる。自分の推しの存在は人間や動物、器物など特定の性格を持ったキャラクターとして具現化され、親しまれていることを知る。</p> <p>・アイデアスケッチを行う。</p> <p>・三面図を制作する。</p> <p>・紙粘土、油粘土、土粘土、その他の樹脂粘土やプラスチック粘土などの特徴を学ぶ。</p> <p>・樹脂粘土に絵の具を混ぜ、心棒となる針金や部品となる材料をつくる。</p> <p>・頭、胴、足、腕、手など各パーツに区分しそれぞれの部品パーツを成型する。</p> <p>・頭、特に顔の部分をつくる。</p> <p>・足と胴、頭を接着、組み立てバランスをとり、自立した作品になるように工夫する。</p> <p>・着彩や土台を組み立て、ニスを塗ったり全体の仕上がりを調整する。</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>【知識・技能】 主題を追究し、意図に応じて材料や用具を選択し、その特徴を生かしている。</p> <p>・樹脂粘土の特性を理解している。</p> <p>・量感や質感を材料の特性を生かして表現できる。</p> <p>・材料を生かして形や色、表現したい全体のイメージや作風を捉えることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・仏像などの塑像の発祥と文化を理解し、現代の親しみあるキャラクターの活用方法、使用方法について考え、自ら工夫してデザインに生かすことができる。</p> <p>・樹脂粘土の特性を生かしたデザインを考え、構造を計画し創造することができる。</p> <p>・キャラクターの社会の活用方法とデザインの工夫を理解し、その塑像とも言える存在がその人の生活空間の中でどのような効果をもたらすのか想像して制作することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・話を聞く姿勢ができる。</p> <p>・立体作品の制作に取り組む意欲がある。</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>16</p>
<p>3 学 期</p>	<p>●「河川の愛護月間」絵手紙 ・身近な生活を振り返り、日常生活の中で河川に関わる思い出を表現する。</p>	<p>・絵手紙の表現技法を理解する。</p> <p>・日常生活の中でドラマを感じ、絵と書でまとめることができる。</p> <p>・垂らし込み、ぼかし、にじみ、の技法を理解する。</p> <p>・文字と絵との構図バランスを考える。</p> <p>・河川愛護月間の応募規定に沿った作品制作を行う。</p> <p>・応募上の注意を理解する。</p> <p>・応募した作品は、国土交通省に帰属する。</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>【知識・技能】 ・構図を意識した作品制作ができる。</p> <p>・絵の具の特性を生かした表現方法ができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・日常生活の雰囲気をとらえ、河川との関りをいきいきと絵手紙に表現することができる。</p> <p>・「河川愛護月間」絵手紙募集の主旨に沿った作品が制作できる</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に絵手紙ならではの効果をなどを追究して表現の創造活動に取り組もうとしている。</p> <p>・粘り強く試行錯誤を重ねることができたか。</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>6</p>
	<p>●ペンで表すモノクロームの世界 ・鉛筆の描写とは違うペンによる白黒の表現技法を習得する。白黒による表現の多様性を理解する。</p> <p>・形の省略や強調を考え、立体感や空間を工夫して表現する。</p>	<p>・線や点を重ねたり、余白を活かして画面を構成するペン画ならではの技法を理解する。</p> <p>・どのような情景や主題をどのように表現するのか試行錯誤し、画面を構成する。</p> <p>・丁寧に線や点を重ねていき、密度のある画面に仕上げる。</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>【知識・技能】 ・ペンの扱い方を習得し、効果的に使えているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・白と黒という制約の中で自由に発想し構想を練り、ペンの使い方を工夫し、独自の表現ができたか。</p> <p>・課題に興味を持ち、粘り強く取り組んだか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・主体的に課題に興味を持ち、粘り強く取り組んだか。</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>12</p>
						<p>合計 70</p>

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 情報

科目 必修選択情報

教科：情報

科目：必修選択情報

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～4組

使用教科書：（図説 情報Ⅰ 実教出版）

教科 情報

の目標：

- 【知識及び技能】 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目 必修選択情報

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。協働的な学びを通し、思考力や判断力を身に付け問題解決に生かす。	情報社会との関りについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	相当 時数
1 学 期	●進路について、情報デザイン（オリエンテーション含む） 【知識及び技能】 自身の進路について考えている 情報デザインについて理解している 【思考力、判断力、表現力等】 自分の考えを、将来の展望から表現できる 文化祭ポスターの作成を多角的な視点で表現している 【学びに向かう力、人間性等】 与えられた課題に取り組み、提出期限を守っている 振り返りをしっかり行っている	・指導事項 探究活動の導入として、自己の進路及び自己分析を行い、自身の強みを発見する 文化祭のポスターの公募に全員応募できるよう、ソフトウェアを用い、作品を作る ・教材 Teamsアカウント紐づけソフト ・CALL教室内PC	【知識・技能】 ワークシート 実習 【思考・判断・表現】 ワークシート及びポートフォリオ 実習 【主体的に学習に取り組む態度】 発問・発表 ワークシート及びポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	8
	●探究活動（個人及びグループ） 【知識及び技能】 探究活動のスパイラルを理解する 与えられた課題について、疑問をもち、解決の道筋をたてる 【思考力、判断力、表現力等】 何故の問いについて、根拠をもとに個人または他者と意見交換しながらまとめている 分かりやすい内容、デザインを工夫している 【学びに向かう力、人間性等】 自らの知識や参考文献、データで根拠を基に解決に向かっている 与えられた時間で適切に発表している 振り返りをしっかり行っている	・指導事項 探究活動の充実 ・教材 食品成分表の課題 企業2社の問い ・CALL教室のPC 一人1台端末の活用	【知識・技能】 ワークシート 実習 【思考・判断・表現】 ワークシート及びポートフォリオ 実習 【主体的に学習に取り組む態度】 発問・発表 ワークシート及びポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	18
	●オフィスソフトの活用 【知識及び技能】 1年次の実習の内容を理解している 与えられた課題について、例題を基に解決しようとしている 【思考力、判断力、表現力等】 対話型AI等の活用し、解決のヒントを得ながら解決に向かう 他者と協力しながら解決に向かう 【学びに向かう力、人間性等】 期限を守り、課題に取り組んでいる 振り返りをしっかり行っている	・指導事項 オフィスソフトの応用 ・教材 公文書のルールと作成 エクセル実習応用（関数） パワーポイント録画機能	【知識・技能】 実習 【思考・判断・表現】 ポートフォリオ 実習 【主体的に学習に取り組む態度】 発問・発表 ポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）	○	○	○	14

2 学 期	<p>●アンケート調査（グループ学習）</p> <p>【知識及び技能】 自らの系に関連した疑問を発見することができる</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自らの問いを他者に具体的に説明し、意見交換を行うことができる 問いに対して、様々なツールを活用し分析等を行うことができる</p> <p>【学びに向かう力、人間性】 他者と協力し、解決に向かう 振り返りをしっかり行っている</p>	<p>・指導事項 幼児教育・保育系、栄養・健康系でグループを作り、系に関連したアンケートを作成、全学年に調査し、分析し考察を全学年に還元する</p> <p>・教材</p> <p>※3学期にも継続して実施</p>	<p>【知識・技能】 実習</p> <p>【思考・判断・表現】 ポートフォリオ 実習 協同的な学び</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 発問・発表 ポートフォリオ 振り返りフォーム（電子）</p>	○	○	○	18
3 学 期	<p>●プログラミング</p> <p>【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>外部教材の指示に従い、与えられた課題について、適切に行っていることと、振り返り等のテストを行っている</p>	<p>・教材 外部教材により、進捗等をまとめる</p> <p>情報系の検定試験にチャレンジする</p>	<p>【知識・技能】 実習状況</p> <p>【思考・判断・表現】 実習状況</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 実習状況 振り返りフォーム（電子）</p>	○	○	○	10
	まとめ	年間のまとめ 自らの変容等をまとめる	<p>【知識・技能】 ポートフォリオ</p> <p>【思考・判断・表現】 ポートフォリオ</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 振り返りフォーム（電子）</p>			○	2
							合計
							70

2 学 期	<p>少子高齢化の現状と高齢者の特徴</p> <p>【知識及び技能】 日本の少子高齢化の変化について理解する。家族関係の変化について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 高齢化の現状や世帯構成の変化の背景を理解し、実情に即した福祉サービスを考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、少子高齢化について多角的に捉えている。</p>	<p>●指導事項 少子高齢化の現状 家族・地域の変化 血圧の測定体験</p> <p>●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末】</p>	<p>【知識・技能】 学習内容について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。</p>	○	○	○	10
	<p>高齢者支援の法律と制度</p> <p>【知識及び技能】 日本の社会保障・社会福祉制度を構成する四つの領域について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 具体的制度について理解し、その必要とあり方について考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、自立支援について視野を広げ、実践しようとしている。</p>	<p>少子高齢化の現状と高齢者の特徴</p> <p>【知識及び技能】 日本の少子高齢化の変化について理解する。家族関係の変化について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 高齢化の現状や世帯構成の変化の背景を理解し、実情に即した福祉サービスを考えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、少子高齢化について多角的に捉えている。</p>	<p>【知識・技能】 学習内容について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。</p>	○	○	○	8
	<p>介護の実習</p> <p>【知識及び技能】 基本的な介助技術を習得する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 介助技術を習得し、介助の根拠を知り、介助における具体的配慮をすることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 実習やレポートの作成に積極的に参加し、技術の向上を目指そうとしている。</p>	<p>●指導事項 食事の介助 (食事介助体験、とろみをつけた飲料の試飲) 災害時の介護</p> <p>●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末】</p>	<p>【知識・技能】 学習内容について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。</p>	○	○	○	9
定期考査			○	○		1	
3 学 期	<p>介護の実習</p> <p>【知識及び技能】 基本的な介助技術を習得する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 介助技術を習得し、介助の根拠を知り、介助における具体的配慮をすることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 実習やレポートの作成に積極的に参加し、技術の向上を目指そうとしている。</p>	<p>●指導事項 食事の介助 災害時の介護</p> <p>●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末】</p>	<p>【知識・技能】 学習内容について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。</p>	○	○	○	8
	<p>生活支援</p> <p>【知識及び技能】 福祉分野におけるレクリエーションの意義を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 場面に適したレクリエーション活動を考え、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 実習やレポートの作成に積極的に参加し、技術の向上を目指そうとしている。</p>	<p>●指導事項 レクリエーション</p> <p>●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末】</p>	<p>【知識・技能】 学習内容について理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
						合計	
						70	

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教科： 家庭 科目： フードデザイン 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組（保育・栄養科 保育系（必選））

使用教科書：（（教育図書） フードデザイン Food Changes LIFE ）

教科 家庭 の目標： 家庭生活に関わる産業の見方・考え方を培わせる。実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 食生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食生活に関する課題を発見し、職業人に求められる、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 習得した知識と技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、家庭や地域において食育を推進に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	●第1章 健康と食生活 「食事の意義と役割」 「食を取り巻く現状」 【知識及び技能】 ・「食事の意義と役割」について理解するとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、などの視点で「我が国の食生活の現状」と課題を把握し、関連する情報を収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「健康な食生活の在り方」に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「健康と食生活」について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 ●実践編 献立と調理	●指導事項 「健康と食生活」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・「食事の意義と役割」「我が国の食生活の現状」について理解しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・「健康な食生活の在り方」に関する課題を発見し、その解決に向けて「望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫」などについて他者と意見交換しながら考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「健康と食生活」について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	●第4章 調理してみよう 「なぜ調理するのか」 「調理操作と調理器具」 【知識及び技能】 ・「調理にはさまざまな機能がある」ことを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「非加熱調理・加熱調理の種類と、用いる調理器具」について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「調理器具の特徴としくみ」など、講義で学んだことを調理と相互に関連を図りかつ理解し、実際の調理で生かそうと主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 ●実践編 献立と調理	●指導事項 「調理してみよう（「なぜ調理するのか」「調理操作と調理器具）」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・「調理にはさまざまな機能がある」ことを理解し、関連する技術を身に付けているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・「非加熱調理・加熱調理の種類と、用いる調理器具」について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「調理器具の特徴としくみ」など、講義で学んだことを調理と相互に関連を図りかつ理解し、実際の調理で生かそうと主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
2 学 期	●第2章 栄養素と食品 「栄養素の消化と吸収」 「各栄養素のはたらき」 【知識及び技能】 ・「基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能」「食品の特徴、調理上の性質」「調理による成分の変化」について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「食品の性質と目的に応じた加工」「貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。 ●第4章 調理してみよう ●実践編 献立と調理	●指導事項 「栄養素と食品」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・「基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能」「食品の特徴、調理上の性質」「調理による成分の変化」について理解しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・「食品の性質と目的に応じた加工」「貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「食品の特徴や調理上の性質の変化」など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りかつ理解し、実際の調理で生かそうと主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1

<p>●第3章 食品の選択と取扱い 「食品選択の目的」「食品の衛生と安全」「食の安全を考えて選ぶ」 【知識及び技能】 ・「食品に記載された情報の正しい見方」や「食物アレルギー」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「食中毒の種類や危険性」について知り、正しい予防ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「食の安全を確保するための制度」や「食についてのメディアリテラシー」について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ●第4章 調理してみよう ●実践編 献立と調理</p>	<p>●指導事項 「食品の選択と取扱い」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】</p>	<p>【知識・技能】 ・「食品に記載された情報の正しい見方」や「食物アレルギー」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【思考・判断・表現】 ・「食中毒の種類や危険性」について知り、正しい予防ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・「食の安全を確保するための制度」や「食についてのメディアリテラシー」について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)</p>	○	○	○	20
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>●第4章 調理してみよう ●第5章 各国料理とコーディネート 料理の様式 テーブルコーディネート ●第6章 食育と食育推進活動 食育推進の取り組み 食文化を見つめる 食と環境について考えよう 【知識及び技能】 ・「各様式別料理の特徴」「各様式の献立構成」「食卓構成」「マナーやサービス」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「テーブルコーディネートの基本」「食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作り」の技術を自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「食育の大切さ」「日本の食料自給率の現状と問題点」について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ●実践編 献立と調理</p>	<p>●指導事項 「各国料理とコーディネート」「食育と食育推進活動」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】</p>	<p>【知識・技能】 ・「各様式別料理の特徴」「各様式の献立構成」「食卓構成」「マナーやサービス」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【思考・判断・表現】 ・「テーブルコーディネートの基本」「食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作り」の技術を自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・「食育の大切さ」「日本の食料自給率の現状と問題点」について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)</p>	○	○	○	15
<p>定期考査</p>			○	○		1
						合計
						70

3
学
期

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教科： 家庭 科目： フードデザイン 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組（保育・栄養科 栄養系）

使用教科書：（（教育図書） フードデザイン Food Changes LIFE ）

教科 家庭 の目標： 家庭生活に関わる産業の見方・考え方を培わせる。実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 食生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食生活に関する課題を発見し、職業人に求められる、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 習得した知識と技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、家庭や地域において食育を推進に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	●第1章 健康と食生活 「食事の意義と役割」 「食を取り巻く現状」 【知識及び技能】 ・「食事の意義と役割」について理解するとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、などの視点で「我が国の食生活の現状」と課題を把握し、関連する情報を収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「健康な食生活の在り方」に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「健康と食生活」について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 ●実践編 献立と調理	●指導事項 「健康と食生活」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・「食事の意義と役割」「我が国の食生活の現状」について理解しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・「健康な食生活の在り方」に関する課題を発見し、その解決に向けて「望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫」などについて他者と意見交換しながら考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「健康と食生活」について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	●第4章 調理してみよう 「なぜ調理するのか」 「調理操作と調理器具」 【知識及び技能】 ・「調理にはさまざまな機能がある」ことを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「非加熱調理・加熱調理の種類と、用いる調理器具」について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「調理器具の特徴としくみ」など、講義で学んだことを調理と相互に関連を図りかつ理解し、実際の調理で生かそうと主体的かつ協動的に取り組もうとしている。 ●実践編 献立と調理	●指導事項 「調理してみよう（「なぜ調理するのか」「調理操作と調理器具）」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・「調理にはさまざまな機能がある」ことを理解し、関連する技術を身に付けているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・「非加熱調理・加熱調理の種類と、用いる調理器具」について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「調理器具の特徴としくみ」など、講義で学んだことを調理と相互に関連を図りかつ理解し、実際の調理で生かそうと主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
2 学 期	●第2章 栄養素と食品 「栄養素の消化と吸収」 「各栄養素のはたらき」 【知識及び技能】 ・「基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能」「食品の特徴、調理上の性質」「調理による成分の変化」について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「食品の性質と目的に応じた加工」「貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。 ●第4章 調理してみよう ●実践編 献立と調理	●指導事項 「栄養素と食品」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】	【知識・技能】 ・「基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能」「食品の特徴、調理上の性質」「調理による成分の変化」について理解しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・「食品の性質と目的に応じた加工」「貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「食品の特徴や調理上の性質の変化」など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りかつ理解し、実際の調理で生かそうと主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1

<p>●第3章 食品の選択と取扱い 「食品選択の目的」「食品の衛生と安全」「食の安全を考えて選ぶ」 【知識及び技能】 ・「食品に記載された情報の正しい見方」や「食物アレルギー」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「食中毒の種類や危険性」について知り、正しい予防ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「食の安全を確保するための制度」や「食についてのメディアリテラシー」について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ●第4章 調理してみよう ●実践編 献立と調理</p>	<p>●指導事項 「食品の選択と取扱い」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】</p>	<p>【知識・技能】 ・「食品に記載された情報の正しい見方」や「食物アレルギー」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【思考・判断・表現】 ・「食中毒の種類や危険性」について知り、正しい予防ができ、自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・「食の安全を確保するための制度」や「食についてのメディアリテラシー」について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)</p>	○	○	○	20
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>●第4章 調理してみよう ●第5章 各国料理とコーディネート 料理の様式 テーブルコーディネート ●第6章 食育と食育推進活動 食育推進の取り組み 食文化を見つめる 食と環境について考えよう 【知識及び技能】 ・「各様式別料理の特徴」「各様式の献立構成」「食卓構成」「マナーやサービス」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「テーブルコーディネートの基本」「食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作り」の技術を自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「食育の大切さ」「日本の食料自給率の現状と問題点」について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ●実践編 献立と調理</p>	<p>●指導事項 「各国料理とコーディネート」「食育と食育推進活動」を考慮に入れた「献立・調理」を実践する ●使用教材 【教科書、ワークシート、タブレット端末、調理実習用具・食器各種】</p>	<p>【知識・技能】 ・「各様式別料理の特徴」「各様式の献立構成」「食卓構成」「マナーやサービス」について、基本的な考え方や方法を理解し、関連する技術を身に付けているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【思考・判断・表現】 ・「テーブルコーディネートの基本」「食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作り」の技術を自らの食生活をより豊かにするために考え、工夫しているか。 (定期試験/ワークシート/行動観察)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・「食育の大切さ」「日本の食料自給率の現状と問題点」について自ら学び、食文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。 (ワークシート/行動観察)</p>	○	○	○	15
<p>定期考査</p>			○	○		1
						合計
						70

3
学
期

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

家庭 科目 子供と音楽

教科：家庭

科目：子供と音楽

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～

4組

使用教科書：（なし）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】 生活に必要な知識と技術を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解する。

【学びに向かう力、人間性等】 男女が主体的に家庭や地域の生活を想像する能力と実践的な態度を育てる。

科目 子供と音楽

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ピアノやその他の楽器を用いた伴奏や歌唱など保育を担う職業人としての知識及び技術を身に付ける。	子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につける。	子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、全国高等学校家庭科技術検定保育検定に3級を受験する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	A 「器楽」ピアノ演奏 【知識及び技能】 楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい楽器の使い方を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。	1. 日本と世界の季節に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則1～15のピアノ演奏 3. 音楽理論（音符等） 4. ソルフェージュ（聴音）	【知識・技能】 ピアノを用いた伴奏の知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになろうとしている。	○	○	○	14
	B 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】 歌唱表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。		【知識・技能】 歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになろうとしている。	○	○	○	14
	授業内考査 家庭科技術検定保育3級		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論 家庭科技術検定保育検定音楽リズム3級	○	○	○	1
2 学期	A 「器楽」ピアノ演奏 【知識及び技能】 楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしいピアノの使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。	1. 日本と世界の季節に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則1～15のピアノ演奏 3. 音楽理論（音符等） 4. ソルフェージュ（聴音）	【知識・技能】 ピアノを用いた伴奏の知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 子供が音楽に親しみ、援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになろうとしている。	○	○	○	16
	B 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】 歌唱表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。		【知識・技能】 歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになろうとしている。	○	○	○	16
	授業内考査 家庭科技術検定保育3級		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論 家庭科技術検定保育検定音楽リズム3級	○	○	○	1
3 学期	A 「器楽」ピアノ演奏 【知識及び技能】 楽器表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしいピアノの使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。	1. 日本と世界の季節に関する童謡の歌唱 2. バイエル教則1～15のピアノ演奏 3. 音楽理論（音符等） 4. ソルフェージュ（聴音）	【知識・技能】 ピアノを用いた伴奏の知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 子供が音楽に親しみ、援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになろうとしている。	○	○	○	6
	B 「歌唱」発声方法・唱歌演奏 【知識及び技能】 歌唱表現に関わる知識や技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などを身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 音楽活動を通じて、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようにする。		【知識・技能】 歌唱などの知識及び技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 子供が音楽に親しみ、歌を歌う活動を援助する方法を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供にとっての音楽活動の重要性と可能性を探り、将来職業人として音楽を楽しめる指導ができるようになろうとしている。	○	○	○	6
	授業内考査 家庭科技術検定保育3級		実技（ピアノ、歌唱）音楽理論 家庭科技術検定保育検定音楽リズム3級	○	○	○	2 合計 70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

家庭 科目 栄養

教科： 家庭

科目： 栄養

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～

4 組

使用教科書：（ 実教出版 栄養

）

教科 家庭

の目標： 家庭生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

- 【知識及び技能】 家庭生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭生活に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 職業生活を営むために必要な豊かな人間性を育む。自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 栄養

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	栄養状態の改善の面から食生活の充実に向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 栄養とは 【知識・技能】 栄養に関する分野について、理解する。 【思考・判断・表現】 既習内容を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深めている。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活ハンドブック ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 栄養に関する分野について、学習指導要領に即した内容を理解できているか。 【思考・判断・表現】 既習内容を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	6
	B 栄養素の機能と代謝 【知識及び技能】 栄養素の代謝を理解する。 【思考・判断・表現】 代謝についてその原理を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深めている。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活ハンドブック ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 栄養素の代謝を理解出来ているか。 振り返り（小テスト）を行う。 【思考・判断・表現】 代謝についてその原理を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	8
	C 食欲と消化・吸収 【知識及び技能】 消化吸収について、理解する。 【思考・判断・表現】 消化吸収について、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 調査とレポートで学びを深める。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活ハンドブック ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 消化吸収について、理解できているか。 【思考・判断・表現】 消化吸収について、説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 調査とレポートで学びを深められたか。	○	○	○	10
	D 食事摂取基準 【知識及び技能】 4群法の正しい理解する。 1日に必要な食品の目測ができる。 【思考・判断・表現】 食事摂取基準を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 献立の評価と改善に取り組む。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活ハンドブック ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 4群法の正しい理解ができているか。 1日に必要な食品の目測ができるか。 【思考・判断・表現】 食事摂取基準を説明できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 献立の評価と改善に取り組めたか。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	E ライフステージと栄養 【知識・技能】 乳幼児栄養、青年期栄養、高齢者栄養の特徴を知り、ライフステージと栄養について理解する。 【思考・判断・表現】 課題を設定して調査研究ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深める。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活ハンドブック ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 ライフステージと栄養について理解したか。 【思考・判断・表現】 課題を設定して調査研究ができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループワークで学びを深められたか。	○	○	○	10
	F 病状と栄養 【知識・技能】 栄養障害、病態時の栄養、食事療法について正しく理解する。 【思考・判断・表現】 適切な課題学習のテーマを設定できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題解決を目的とし挑戦できる。	・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活ハンドブック ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 正しく理解できているか。 【思考・判断・表現】 適切な課題学習のテーマを設定できるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題解決を目的とし挑戦できたか。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1

3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・講義およびグループワーク ・教材 教科書・補足プリント 生活ハンドブック ・一人1台端末の活用 	<p>【知識・技能】 食品の特性を理解できたか。</p> <p>【思考・判断・表現】 実験の目的を理解し、結果や考察を示せるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 体験学習に積極的に取り組めたか。</p>	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
						合計	70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 家庭

科目 家庭基礎

教科： 家庭

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 5 組～ 6 組

使用教科書：（ 実教出版 図説家庭基礎 ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】 生活に必要な知識と技術を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解する。

【学びに向かう力、人間性等】 男女が主体的に家庭や地域の生活を想像する能力と実践的な態度を育てる。

科目 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実・向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	はじめに よりよい生活をめざすための課題解決 自分らしい生き方と家族 1 「自立する」とは？ 【知識及び技能】「4つの自立」の必要性について理解し、自己の自立とも関わらせながら考えを深める。 【思考力、判断力、表現力等】今後の人生に向けて自立のためには生活スキルが必要であり、他者との支え合いや社会の支援の中で成り立つことを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】青年期の課題を理解し、自立に向けての目的意識をもつ。	1. 一年間の授業の進め方 2. 生き方の多様性とこれからの人生を理解させる。 3. 青年期と自立について考えさせ、生活的自立と社会的、経済的、性的自立ができる力を養わせる。	【知識・技能】「4つの自立」について必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】人の一生を生涯発達の視点でとらえ、青年期の課題の解決を目指して、思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】自己の自立を目指して青年期の課題に関心を持って取り組んでいる。	○	○	○	6
	食生活をつくる 【知識及び技能】健康な食生活を営むために必要な栄養、食品、表示、また食品の保存と食中毒・食品添加物について基本的な知識と技術を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】食の安全性や健康で安全な食生活を支えるうえでの問題や課題を探る。 【学びに向かう力、人間性等】食事の意義や役割を理解し、現代の食生活の課題について関心をもつ。	1. 栄養とその働き、食品の選択を理解させる。 2. 食品の取り扱いを知り、食事の計画を立てさせる。 3. 調理実習 4. 食品の安全性を理解する。	【知識・技能】食生活の重要性を理解し、栄養や食品の性質や保存、食中毒や食品添加物など、食品の選択に関わる基礎的・基本的な知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】栄養、安全性、環境などの多様な視点を持ち、現代の食生活の問題点および課題を見出し、思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】栄養や食品に関心を持ち、自己の食生活を振り返り、健康で安全な食生活を目指す学習活動に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	衣生活をつくる 【知識及び技能】健康で快適な衣生活を営むために必要な材料や管理などの基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】環境負荷の少ない購入・管理・消費についての問題意識を持つ。 【学びに向かう力、人間性等】衣服の選択の重要性について理解する。	1. 衣服の選択と自分らしい衣生活を考えさせる。 2. 衣服の材料や管理について理解させる。 3. 衣服をめぐるトラブルと表示の見方を知らせる。 4. 被服製作	【知識・技能】被服の機能を理解し、被服材料や管理についての基礎的・基本的な知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】資源の有効利用の観点から衣生活をとらえて、環境や安全などに関わる問題点及び課題を見出し、思考を深めている。 【主体的に学習に取り組む態度】被服材料の性能等に関心を持ち、健康で快適な装着のために必要な知識や技術の習得に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	定期考査 ホームプロジェクト			○	○		2

2 学 期	西洋料理（オードブル） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 オードブルにはどのようなものがあるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類を知る 西洋料理のオードブルの位置づけを理解している 【思考・判断・表現】 オードブル種類を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 西洋料理の種類と調理例を通し、オードブルに用いる食材の種類理解している	○	○	○	10
	中国料理（油烹法） 【知識及び技能】 油を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 油を利用する料理と油烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、油烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 油を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解出来ている 【思考力、判断力、表現力等】 油を利用する料理と油烹法の種類が結びつく知識が身に付いている 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、油烹法に用いた料理を理解出来ている	○	○	○	10
	西洋料理（ポタージュ） 【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、スープの位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 スープにはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、ポタージュに向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、スープの位置づけを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 スープにはどのような種類があるか理解している 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、ポタージュに向く食材を理解している	○	○	○	10
	定期考査			○	○		4
3 学 期	中国料理（蒸烹法） 蒸気を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 蒸気を利用する料理と蒸烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、蒸烹法を用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識及び技能】 蒸気を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解出来ている 【思考力、判断力、表現力等】 蒸気を利用する料理と蒸烹法の種類が結びつく知識が身に付いている 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、蒸烹法に用いた料理を理解出来ている	○	○	○	9
	西洋料理（ボワソン） 【知識・技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理の位置づけを知る 【思考力、判断力、表現力等】 魚料理にはどのような種類があるか理解する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理に向く食材を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	【知識・技能】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理の位置づけを理解している 【思考力、判断力、表現力等】 魚料理にはどのような種類があるか理解している 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理例を通し、魚料理に向く食材を理解している	○	○	○	8
	定期考査			○	○		4
合計							105

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

家庭

科目 食品衛生

教科：家庭

科目：食品衛生

単位数：1 単位

対象学年組：第 2 学年 5 組

使用教科書：（

）

教科 家庭

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 食品衛生

の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、安全で衛生的な食生活の実現を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食生活の安全と食品衛生対策について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食品衛生に関する課題を発見し、安全で衛生的な食生活の実現を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	安全で衛生的な食生活の実現を目指して自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	A 食の安全と衛生 【知識及び技能】 食の安全確保の仕組みを体系的・系統的に理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 食品衛生法や食品安全基本法等の法律について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食品衛生と調理師の責務について学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。	・調理師と食の安全の関わり ・食品衛生に関するポスター制作	A 食の安全と衛生 【知識及び技能】 食の安全確保の仕組みを体系的・系統的に理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 食品衛生法や食品安全基本法等の法律について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 食品衛生と調理師の責務について学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	B 食品と微生物 【知識及び技能】 食品中の微生物（細菌・ウイルス）について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌とウイルスの違いと微生物の増殖条件について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 食品に影響する微生物について学び、調理従事者として主体的に健康管理をする態度を身に付ける。	・微生物の種類と特徴 ・調理従事者の健康管理	B 食品と微生物 【知識及び技能】 食品中の微生物（細菌・ウイルス）について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌とウイルスの違いと微生物の増殖条件について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 食品に影響する微生物について学び、調理従事者として主体的に健康管理をする態度を身に付ける。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		2
2 学期	C 細菌性食中毒 【知識及び技能】 感染型食中毒、毒素型食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 細菌性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・細菌性食中毒の種類と特徴 ・細菌性食中毒の予防	C 細菌性食中毒 【知識及び技能】 感染型食中毒、毒素型食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 細菌性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 細菌性食中毒について学び、主体的にその予防をしようとしている。	○	○	○	6
	D ウイルス性食中毒 【知識及び技能】 ノロウイルスを中心としたウイルス性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ウイルス性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ウイルス性食中毒について学	・ウイルス性食中毒の種類と特徴 ・ウイルス性食中毒の予防	D ウイルス性食中毒 【知識及び技能】 ノロウイルスを中心としたウイルス性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 ウイルス性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 ウイルス性食中毒について学び、主体的にその予防をしようとしている。	○	○	○	6

	び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。						
	定期考査			○	○		2
3 学 期	E 自然毒食中毒 【知識及び技能】 自然毒食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自然毒食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自然毒食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・自然毒食中毒の種類と特徴 ・自然毒食中毒の予防	E 自然毒食中毒 【知識及び技能】 自然毒食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 自然毒食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 自然毒食中毒について学び、主体的にその予防しようとしている。	○	○	○	4
	F 化学性食中毒 【知識及び技能】 化学性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 化学性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 化学性食中毒について学び、主体的にその予防をする態度を身に付ける。	・化学性食中毒の種類と特徴 ・化学性食中毒の予防	F 化学性食中毒 【知識及び技能】 化学性食中毒とその予防について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 化学性食中毒の種類と特徴について考察し、まとめている。 【学びに向かう力、人間性等】 化学性食中毒について学び、主体的にその予防しようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
						合計	35

3 学 期	調理師の役割 【知識及び技能】 調理師とはどのような資格か理解する 【思考・判断・表現】 調理師の変遷を理解する 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師の資格申請の方法を理解する	教科書、資料集 調理師のあり方と、調理師法との関わり、免許の申請方法を学ぶ	【知識・技能】 調理師の役割を知り、調理師法を理解している 【思考・判断・表現】 調理師としての講義内容を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師の免許の申請方法を理解している	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
							合計

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 福祉 科目 社会福祉基礎

教科: 福祉 科目: 社会福祉基礎 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 6 組

使用教科書: (介護福祉基礎 実教出版)

教科 福祉 の目標:

【知識及び技能】介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身に

【思考力、判断力、表現力等】介護に関する諸問題を発見し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を:

【学びに向かう力、人間性等】より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付け

科目 社会福祉基礎 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身に付けている	介護に関する諸問題を発見し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている	より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	A 介護従事者を取り巻く状況 【知識・技能】 介護の歴史と現状を理解し、介護にかかわる専門職および人材について正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 介護人材の確保に関する諸課題を発見し、解決する力を身につける。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護職のキャリアについて主体的に考察できる。	・介護の歴史と現状 ・介護福祉士の養成 ・介護人材の確保と定着 ・介護従事者のキャリアアップ ・介護従事者の社会的地位の向上 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、 一人1台端末	【知識・技能】 介護の歴史と現状を理解し、介護にかかわる専門職および人材について正しい知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 介護人材の確保に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護職のキャリアについて主体的に考察している。	○	○	○	12
	定期考査		○	○		1	
	B 介護における安全確保と事故対策 【知識・技能】 介護のリスクマネジメントや事故予防を理解し、身体拘束の禁止および防災対策について正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 介護現場における諸課題を発見し、解決する力を身につける。 【主体的に学習に取り組む態度】 防災対策について主体的に考察できる。	・介護におけるリスクマネジメント ・事故予防のための対策 ・介護現場で多い事故 ・身体拘束の禁止 ・介護現場における防災対策 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、 一人1台端末	【知識・技能】 介護のリスクマネジメントや事故予防を理解し、身体拘束の禁止および防災対策について正しい知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 介護現場における諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 防災対策について主体的に考察している。	○	○	○	12
定期考査		○	○		1		
2 学期	C 介護実践における連携 【知識・技能】 多職種連携の必要性を理解し、各専門職との連携や地域社会の役割について正しい知識を身につける。 【主体的に学習に取り組む態度】 多職種連携や地域社会の役割について主体的に考察できる。	・多職種連携とチームケア ・医療、保健、福祉と介護 ・介護支援専門員との連携 ・ボランティアとの連携 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、 一人1台端末	【知識・技能】 多職種連携の必要性を理解し、各専門職との連携や地域社会の役割について正しい知識を身につけている。 【主体的に学習に取り組む態度】 多職種連携や地域社会の役割について主体的に考察している。	○	○	○	12
	定期考査		○	○		1	
	D 介護従事者の役割と介護福祉士 【知識・技能】 介護の専門性を理解し、在宅介護従事者や施設介護従事者の役割について、正しい知識を身につける。 【思考・判断・表現】 災害時の支援に関する諸課題を発見し、解決する力を身につける。 【主体的に学習に取り組む態度】 終末期のケアにおける介護従事者の役割について主体的に考察できる。	・健康管理の重要性 ・心理面の健康管理 ・身体面の健康管理 ・労働安全衛生に関する知識 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、 一人1台端末	【知識・技能】 心理面、身体面の健康管理を理解し、労働安全衛生について正しい知識を身につけている。 【思考・判断・表現】 健康管理に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 労働安全衛生について主体的に考察している。	○	○	○	12
定期考査		○	○		1		

3 学 期	<p>E 介護従事者の健康管理</p> <p>【知識・技能】 心理面、身体面の健康管理を理解し、労働安全衛生について正しい知識を身につける。</p> <p>【思考・判断・表現】 健康管理に関する諸課題を発見し、解決する力を身につける。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 労働安全衛生について主体的に考察できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理の重要性 ・心理面の健康管理 ・身体面の健康管理 ・労働安全衛生に関する知識 <p>教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末 	<p>【知識・技能】 心理面、身体面の健康管理を理解し、労働安全衛生について正しい知識を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 健康管理に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 労働安全衛生について主体的に考察している。</p>	○	○	○	17
	定期考査			○	○		1
						合計	70

高等学校 令和8年度(2学年用)教科 福祉 科目 介護福祉基礎

教科：福祉 科目：介護福祉基礎 単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 6組

使用教科書：(実教出版「社会福祉基礎」 中央法規「人間の理解」「社会の理解」)

教科 福祉 の目標：

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性をはぐくみ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

科目 介護福祉基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。	健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第3編 第1章 社会保障制度の意義と役割 【知識及び技能】 社会福祉・社会保障制度の意義やその役割について理解する。 【思考・判断・表現】 社会福祉を推進する我が国の行政体制に関して理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 社会福祉と社会保障制度について理解し、今後の社会福祉の推進について主体的に考察する。	指導事項 社会福祉・社会保障制度の意義と役割 ・社会保障制度の意義と役割 ・社会福祉と社会保障制度 ・社会福祉を推進する機関 国民生活を支える社会保障制度 ・日本の社会保険制度の枠組み 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末	【知識・技能】 社会福祉と社会保障制度について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 社会福祉と社会保障制度に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉と社会保障制度の今後の在り方を考察し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
1学期 第2章 子ども家庭福祉 【知識及び技能】 子ども家庭福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国における子ども家庭福祉の体制について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の子ども家庭福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・少子化時代の子ども子育て支援 ・子育て支援と保育 ・障害のある子どもの福祉 ・子どものすこやかな成長への支援 ・市町村と児童相談所の役割 ・社会的養護と児童虐待への対応 ・子どもの貧困と一人親家庭の福祉 ・子どもの権利と子ども家庭福祉 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末	【知識・技能】 子ども家庭福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子ども家庭福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、子ども家庭福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
第3章 障害者福祉 【知識及び技能】 障害者福祉の役割や各種制度との関係について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国における障害者福祉の体制について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の障害者福祉の在り方について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・障害福祉 ・社会モデルとICF ・障害者の現状と生活のしづらさ ・障害福祉の理念 ・ノーマライゼーション ・自立生活運動 ・障害者基本法 ・障害者総合支援法 ・障害ごとの現状と支援 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末	【知識・技能】 障害福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 障害福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、障害福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1

高等学校 令和8年度（2学年用）教科 福祉 科目 コミュニケーション技術

教科：福祉 科目：コミュニケーション技術 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 6組～ 組

使用教科書：（実教出版 コミュニケーション技術 ）

教科 福祉 の目標：

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性をはぐくみ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造。

科目 コミュニケーション技術 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護福祉場面で活用できるコミュニケーションにおける基礎的な知識と技術を習得する。	サービス利用者やその家族を取り巻く状況を理解し、それに応じたコミュニケーションを実践する力を養う。	サービス利用者やその家族との信頼関係構築および専門職としてのよりよい関係・チームを構築を目指し、コミュニケーションが図ることができる姿勢と態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
介護におけるコミュニケーションの意義と役割 【知識及び技能】 介護従事者としての人間関係形成に必要なコミュニケーションの意義と役割について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護従事者としての人間関係の形成に必要なコミュニケーション実践について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 介護従事者としての自己理解を深め、利用者を含めた他者理解を深める	指導事項 ・人間理解 ・人間関係 ・自己理解 ・他者理解 ・自己開示 ・自己開示 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための知識を身に付ける。 【思考・判断・表現】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための方法について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、意図的にコミュニケーション実践を行うための方法を実践につなげようとしている。	○	○	○	12
介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術の理解 【知識及び技能】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術を理解し、利用者の状態に合わせた技術を考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 介護場面におけるコミュニケーションの基本的技術を理解し、利用者とのよりよい関係構築につなげる方法を考察できる	指導事項 ・言語的コミュニケーション ・非言語的コミュニケーション ・集団におけるコミュニケーション ・傾聴 ・受容 ・共感 ・効果的な質問 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションに関する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションのあり方を、根拠を持って考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護場面において必要な人間関係形成を図るためのコミュニケーションについて、主体的かつ協働的に考え実践しようとする。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1
サービス利用者に応じたコミュニケーション 高齢者・視覚障害・聴覚障害・言語障害 【知識及び技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、コミュニケーションに必要な知識を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者 に合わせたコミュニケーションの方法を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、利用者 にとってのコミュニケーションの意味を考察する。	指導事項 ・加齢による心身の変化 ・障害とコミュニケーション ・障害がもたらす二次障害 ・先天障害 ・中途障害 ・聴覚障害とコミュニケーション ・視覚障害とコミュニケーション ・言語障害とコミュニケーション 教材 ・ワークシート等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響を理解し、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響と生活における課題を発見し、創造的に解決に向けて考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 加齢、各障害がコミュニケーションに及ぼす影響や生活における課題を理解し、利用者の生きがいや生活向上に繋がるコミュニケーションを考え、実践しようとする。				15

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科 福祉 科目 生活支援技術

教科：福祉 科目：生活支援技術 単位数：4 単位
 対象学年組：第2学年 6組
 使用教科書：（中央法規 最新介護福祉士養成講座 6生活支援技術Ⅰ 7生活支援技術Ⅱ 15医療的ケア 実教出版 生活支援技術
 教科 福祉 の目標：

- 【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえた合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 生活支援技術 の目標：福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなど通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
実技：排泄介助の手順 【知識及び技能】排泄介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】排泄介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	・座学・実技を通じた技術の習得 ・実技テスト	【知識及び技能】 ・排泄介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 ・排泄介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	14
医療的ケア：人間と社会・保健医療制度とチーム医療・安全な療養生活 【知識及び技能】医療的ケアが誕生した背景や他職種協働の重要性を理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】医療的ケアを実施している方が、施設や在宅で生活する際に気を付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】事例を通じて医療的ケアを実施している方には、どういった配慮を他者と相談・協力しながら、積極的に授業に関わる	・座学を通じた知識の理解 ・救急救命	【知識及び技能】 ・医療的ケアが誕生した背景や他職種協働の重要性を理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 ・医療的ケアを実施している方が、施設や在宅で生活する際に気を付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・事例を通じて医療的ケアを実施している方には、どういった配慮を他者と相談・協力しながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	13
1学期 定期考査			○	○	○	1
実技：入浴介助の手順 【知識及び技能】入浴介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】入浴介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】入浴介助を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	・座学・実技を通じた技術の習得	【知識及び技能】 ・入浴介助時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 ・入浴介助を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・入浴介助を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる	○	○	○	14
医療的ケア：清潔保持と感染予防・健康状態の把握 【知識及び技能】清潔保持やスタンダードプリコーションといった、衛生に関する基礎知識を理解する 【思考力、判断力、表現力等】清潔保持やスタンダードプリコーションと関連付けて、様々な事例や対応方法に関する技術を理解する 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、衛生概念を培う。	・座学を通じた知識の理解	【知識及び技能】 ・清潔保持やスタンダードプリコーションといった、衛生に関する基礎知識を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 ・清潔保持やスタンダードプリコーションと関連付けて、様々な事例や対応方法に関する技術を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 ・他者と協調し話し合うことで、介護福祉士が持つべき衛生概念を培う。	○	○	○	14

	定期考査				○	○		1
	<p>実技：入浴介助（手浴・足浴・全身清拭）の手順</p> <p>【知識及び技能】手浴・足浴・全身清拭時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】手浴・足浴・全身清拭を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる</p>	・座学・実技を通じた技術の習得	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手浴・足浴・全身清拭時に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 ・手浴・足浴・全身清拭を実施する際に配慮する点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と協調したりしながら、積極的に授業に関わる 		○	○	○	14
	<p>医療的ケア：高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</p> <p>【知識及び技能】高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える</p>	・座学を通じた知識の理解	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える 		○	○	○	14
	定期考査				○	○	○	1
2 学 期	<p>実技：移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助の手順</p> <p>【知識及び技能】移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助時に配慮する点や、様々な利用者像に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習を通じて対象利用者像に迫れるようなコミュニケーション方法を選択しながら、積極的に授業に関わる</p>	・座学・実技を通じた技術の習得 ・実技テスト	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助に必要な知識を理解し、正しい手順で手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 ・移動（水平移動・上方移動）・移乗（車いす・ポータブルトイレ）着脱（拘縮者）介助時に配慮する点や、様々な利用者像に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・演習を通じて対象利用者像に迫れるようなコミュニケーション方法を選択しながら、積極的に授業に関わる 		○	○	○	10
	<p>医療的ケア：高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説 ・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論</p> <p>【知識及び技能】高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる。高齢者及び障害児・者の経管栄養概論について知識や観察ポイントを理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。高齢者及び障害児・者の経管栄養で起こりうる事故の原因や対応方法に対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える。対応できる思考過程・判断力等を身に着ける。</p>	・座学を通じた知識の理解	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、喀痰吸引について理解することができる 【思考力、判断力、表現力等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引を実施している方が、施設や在宅で吸引実施する際に付ける点や、様々なアクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に着ける 【学びに向かう力、人間性等】 ・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引に関する事例を通じて、喀痰吸引を受ける方の心境や心理面について考える 		○	○	○	14

	定期考査			○	○		1
	<p>実技：様々な介助</p> <p>【知識及び技能】事例を基に、その方にとって今必要な介助は何があるか考え実際に介助をする</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】事例検討を行った上で介助を行い、配慮する点や、最低限の支援に留めているか考え現場でも対応できる思考過程・判断力等を身につける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と事例を検討したりしながら、積極的に授業に関わる</p>	<p>・座学・実技を通じた技術の習得</p> <p>・実技テスト</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>・事例を基に、その方にとって今必要な介助は何があるか考え実際に介助をする</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・事例検討を行った上で介助を行い、配慮する点や、最低限の支援に留めているか考え現場でも対応できる思考過程・判断力等を身につける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>・演習を通じてコミュニケーションを取ったり他者と事例を検討したりしながら、積極的に授業に関わる</p>	○	○	○	14
3 年	<p>医療的ケア：高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説</p> <p>【知識及び技能】高齢者及び障害児・者の経管栄養概論について知識や観察ポイントを理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】高齢者及び障害児・者の経管栄養で起こりうる事故の原因や対応方法に対応できる思考過程・判断力等を身につける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、経管栄養について理解を深める。</p>	<p>・座学を通じた知識の理解</p> <p>・基本研修（座学）修了テスト</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>・高齢者及び障害児・者の経管栄養概論について知識や観察ポイントを理解することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>・高齢者及び障害児・者の経管栄養で起こりうる事故の原因や対応方法に対応できる思考過程・判断力等を身につける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>・高齢者及び障害児・者への喀痰吸引の知識やポイントをDVDを見たり看護師の手順を観察したりして、経管栄養について理解を深める。</p>	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							140

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 福祉 科目 介護過程

教科：福祉 科目：介護過程 単位数：1 単位
 対象学年組：第2学年 6組～ 組
 使用教科書：（実教出版：「介護過程」 中央法規：「介護過程」）

教科 福祉 の目標：福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

- 【知識及び技能】 福祉分野について、体系的・系統的に理解するとともに関連する技術をみにつけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会生活を目指して学び、発展的、協働的社会に取り組める態度を育む。

科目 介護過程 の目標：利用者の尊厳の保持、自立生活支援の観点から介護過程の意義と役割を理解する。利用者の生活課題の解決に向けて、介護職として望ましい考えのもと介護過程を展開できる能力と態度を育てる。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉に関する教科で学んだ知識と技術を統合し個別支援の意義、役割を理解するとともに生活における継続的な支援が行えるよう技術力の向上できる。	個別的な生活支援を展開する上で、生活導線や身体、精神面の変容に気づける観察力を高め専門用語を用いた記録（表現）力を養う。	生活を支援する専門職として、生活上の課題に気づくことができ、計画を修正展開できる解決力を習得できる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	担当 時数
1 学 期	第1章 介護過程とはなにか 【知識・技能】 生活支援に関する技術は根拠にもとづいて行われていることを理解できる 【思考・判断・表現】 個々によって、生活スタイルが異なるため、ニーズに沿った支援に着目する 【主体的に学習に取り組む態度】 生活支援を行ううえで、生活動作から求められる支援を考察できる。	1 介護過程の意義と目的 2 介護過程の全体像 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 根拠に基づいた介護実践には、利用者の視点での解決を目的とした介護過程が必要であることを理解する。 【思考・判断・表現】 介護過程における各展開過程を理解すると共に計画自体の意義について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護過程の目的を日本国憲法の基本的人権、幸福追求権を根拠に理解するとともに、実際に求められる視点について考察する。	○	○	○	2
				○	○	○	3
	介護過程の展開 【知識・技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いた収集方法の違いが理解できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題を整理するために関連図作りを行い考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 日々の状態を把握するための動作、観察した現状を記録へ繋げる。	1 情報収集とアセスメント 2 生活課題と目標設定 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 利用者の方にかかわる情報収集の取り方や意図的なコミュニケーションを用いて収集方法の違いを習得する。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題を整理するために、色別を用いて関連図作りを行い整理することで、課題が明確化できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の学習時から、様々な書式に合わせた表現・専門用語を用いた文章を書き、構成力を培うことができる。	○	○	○	5
				○	○	○	2
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	介護過程の展開 【知識・技能】 生活全体を把握し、課題を整理するための解釈、統合、計画立案の仕組みがわかる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題、直接、間接など課題に優先順位を付けた計画の考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げられ考察できる。	1 介護計画の立案 2 課題計画の実施と評価 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 生活全体を把握し、課題を整理するため解釈、統合、計画立案の一連の仕組みが理解できる。 【思考・判断・表現】 生活に関する課題に命に関連する課題などに優先順位を付けられ計画が立案できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた情報を記録し現状に沿った立案ができる。	○	○	○	6
				○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1

3 学 期	<p>介護過程の実践</p> <p>【知識・技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報取るため、修得力を高める。</p> <p>【思考・判断・表現】 日々の生活から課題が変わっていくことがわかり、支援時の些細な変化に気づき、記録に繋がられる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 情報共有し計画を遂行するための関係性を築けるよう、日々の生活のなかから観察力、洞察力を磨ける。</p>	<p>1 介護計画に基づいた支援の展開</p> <p>2 日々の支援内容を記録に繋がる</p> <p>教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 日々の生活上の課題を観察や記録から情報を取るための修得力が習得できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 生活に関する課題目標に優先順位を付けることができ、サービス提供時の様子を専門的視点、思考、過程を表現することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 計画に沿った支援から得られた、情報を記録へ繋げ、展開ができ修正に繋がられる。</p>	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							35

高等学校 令和8年度（1学年用） 教科

福祉

科目 介護総合演習

教科： 福祉 科目： 介護総合演習

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 1 学年 6 組～ 6 組

使用教科書： （ 中央法規 「介護実習・介護総合演習」 ）

教科 福祉 の目標：

【知識及び技能】実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、介護を実践するために必要な技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】専門的な知識の能力を活用し適切に判断し、専門用語を用いて表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】福祉の見方や考え方を働かせ、他者と共同して問題解決など学びに向かう積極性を習得する。

科目 介護総合演習 の目標： 介護実習などについて、他科目で学んだ知識などを統合し、課題解決に必要な資質・能力を育成する

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地域福祉や社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	地域福祉や社会福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探索し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や社会福祉の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・介護演習 【知識・技能】介護実習が適切かつ総合的に展開できるように、介護実習の意義や目的などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】介護実習を通して個人情報保護やリスクマネジメントなどについて課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【主体的に学習に取り組む態度】地域での継続した生活を支援する介護実習について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 介護演習 事例研究 ・教材 プリント、一人一台端末 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】介護実習施設の概要のみならず、意義や目的、実習生としての心構えなどの説明された内容を理解し、適切に記入する 【思考・判断・表現】これまで他科目で学んだ知識と技術を統合し、具体的な事例について考察し、より良い生活支援について記入する 【主体的に学習に取り組む態度】具体的な事例をから得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する 	○	○	○	11
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究 【知識・技能】事例研究を通してサービス利用者の心理や生活状態などについて理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】介護実習や福祉活動などから得た体験についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【主体的に学習に取り組む態度】介護実習がや福祉活動などから得た体験について自ら学び、事例研究に主体的かつ協働的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 事例研究 ・教材 プリント、一人一台端末 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】介護実習を通して、利用者の心理や生活状態などについて、理解するとともに記入する 【思考・判断・表現】介護実習から福祉専門職として必要な援助方法や価値観について考え、プリントに記入する 【主体的に学習に取り組む態度】介護実習の経験から得た課題について、解決方法などをグループの中で話し合い、より良い方法を見つけ出し、発表する 	○	○	○	11
	定期考査		○	○		1	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究、実験 【知識・技能】調査、研究、実験を通して、福祉の各分野について理解するとともに、関連する技術を身に付ける 【思考・判断・表現】福祉の各分野について、調査、研究、実験などを通して課題を発見するとともに、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する 【主体的に学習に取り組む態度】福祉の各分野について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 調査、研究、実験 ・教材 プリント、一人一台端末 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】社会福祉基礎の内容と介護実習での経験から、関連する部分を理解し、記入する 【思考・判断・表現】介護実習や社会人講師の講演を通して、地域福祉について、福祉施設の役割等を考察し、その内容を記入する 【主体的に学習に取り組む態度】これまでの学習や経験を通して、これからの福祉に必要なことなどを、グループで話し合い、まとめた内容を発表する 	○	○	○	11
	定期考査		○	○		1	
						合計	
						35	

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 福祉

科目 ことごとからだの理解

教科：福祉

科目：ことごとからだの理解

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 6組～ 組

使用教科書：（実教出版 ことごとからだの理解 ）

教科 福祉

の目標：

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に着けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性をはぐみ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造。

科目 ことごとからだの理解

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実践的・体験的な学習活動を通じて、介護技術を活用し、個々に応じた介護を安全に実践できる。	専門的知識を習得し、その能力を生かして状況に応じた言語的表現、及び学習活動を積極的に行うことができる。	他者との協働活動や演習を通じて他者理解を深め、個々の良さを認め合い、協働して学習活動を積極的に行うことができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
生活動作に関することごとからだのしくみ ①身じたくに関することごとからだのしくみ ②移動に関することごとからだのしくみ ③食事に関することごとからだのしくみ 【知識及び技能】 日常生活におけることごとからだのしくみについて理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 日常生活におけることごとからだのしくみの変化を理解し、適切に表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学習に取り組める	・介護従事者として、日常生活場面と健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現できるよう指導する。 ・日常生活動作における人間のことごとからだのしくみを考察し理解させる。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	12
1学期 定期考査			○	○		1
④入浴に関することごとからだのしくみ ⑤排泄に関することごとからだのしくみ ⑥睡眠・休養に関することごとからだのしくみ 【知識及び技能】 日常生活におけることごとからだのしくみについて理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 日常生活におけることごとからだのしくみの変化を理解し、適切に表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学習に取り組める	・介護従事者として、日常生活場面と健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現できるよう指導する。 ・日常生活動作における人間のことごとからだのしくみを考察し理解させる。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	12
定期考査			○	○		1
生活場面の变化に関することごとからだのしくみ ①感染に関することごとからだのしくみ ②緊急時に関することごとからだのしくみ ③災害時に関することごとからだのしくみ ④終末期に関することごとからだのしくみ 【知識及び技能】 さまざまな場面に応じたことごとからだのしくみの変化について理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 ことごとからだの变化に応じた対応について判断できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に学習に取り組める	・さまざまな生活場面から、その時々々の状況が与えることごとからだの变化について、実践的に理解させる。 ・ことごとからだの变化に応じた適切な対応方法について理解させ、場面に応じた対応を身につけさせる	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と協働的に取り組んでいる	○	○	○	15
2学期 定期考査			○	○		1

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 福祉 科目 介護実習

教科：福祉 科目：介護実習 単位数：5 単位

対象学年組：第2学年 6組～ 組

使用教科書：（中央法規 「介護実習・介護総合演習」 ）

教科 福祉 の目標：

- 【知識及び技能】 介護従事者としての職業倫理及び基礎的・基本的意識と技能を習得する
- 【思考力、判断力、表現力等】 各科目の学習で得た知識を生かし、対象者を適切にアセスメントして関わることができる
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な対象者に対するコミュニケーションを積極的に図り、介護従事者に必要な人減関係の構築を図る

科目 介護実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護従事者としての職業倫理及び基礎的・基本的な知識と技術を活用した介護支援が選択できるようになる	職員の方や利用者の方とのかかわりを通じて介護の実際を学び、適切な態度と言葉使いで他者と関係性を育み、適切な表現を用いて実習記録に記入できる	施設実習での様々な場面において、なぜそのような支援が必要なのか、介護の本質は何かについて深く理解しようと努め、関心を持って実習に望んでいる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	介護実習事前指導 【知識及び技能】 福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な実習目標を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 介護実習の留意点を正しく理解し、実践に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 学習に対する積極性が姿勢を考察する	実習の手引き 実習の心得 実習記録の書き方 実習の留意点等 テキスト・教科書・手引き等を用いて指導	【知識・技能】 福祉の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な実習目標を心得ている 【思考・判断・表現】 介護実習の留意点を正しく理解し、実践できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対する積極性がみられる	○	○	○	
	夏季休業 12日間の施設実習 【知識及び技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ適切に実施する方法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 安全・安楽・安心で健全な適切な介護実習の実施方法、利用者一人	施設実習（障害者施設） 巡回指導を定期的実施 実習指導者との連絡調整	【知識・技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを積極的に活用し、利用者一人ひとりに応じたケアの理解に努めた 【主体的に学習に取り組む態度】 アセスメントシートを活用し、専門用語を使用して対象者の全体像を記録できた	○	○	○	100
2 学期	10日間の施設実習 【知識及び技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ適切に実施する方法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 安全・安楽・安心で健全な適切な介護実習の実施方法、利用者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重した個別ケアについてを考察する 【学びに向かう力、人間性等】 介護過程の学習を活用して、対象者の全体像を把握する方法や記録の仕方を考察する	施設実習（介護老人福祉施設） 巡回指導を定期的実施 実習指導者との連絡調整	【知識・技能】 介護過程のの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを積極的に活用し、利用者一人ひとりに応じたケアの理解に努めた 【主体的に学習に取り組む態度】 アセスメントシートを活用し、介護過程の学習を実践して対象者の全体像を記録できた	○	○	○	75
	介護実習事後指導 【知識及び技能】 介護過程の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ適切に実施する方法を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 安全・安楽・安心で健全な適切な介護実習の実施方法を考察する 【学びに向かう力、人間性等】 介護過程の学習を活用して、対象者の全体像を把握する方法や記録の仕方を考察する	実習成果のまとめ 成果発表会に向けての準備	【知識・技能】 介護過程のの見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な介護実習を積極的かつ安全に実施できた 【思考・判断・表現】 コミュニケーションを積極的に活用し、利用者理解に努めた 【主体的に学習に取り組む態度】 アセスメントシートを活用し、介護過程の学習を実践して対象者の全体像を記録できた	○	○	○	
3 学期							合計
							175

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科 総合科 科目 探究ゼミ

教科：総合科 科目：探究ゼミ 単位数：2 単位 2

対象学年組：第2学年 1組～ 4組

使用教科書：（特記事項なし）

教科 総合科 の目標：

- 【知識及び技能】自ら課題を設定し、調査・分析に必要な知識や情報収集・整理の技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】課題に対して論理的に考察し、適切な判断を行い、成果を多様な形で分かりやすく表現できる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】主体的に学びに向かい、他者と協働しながら自己を高める態度や、探究心・責任感を育む。

科目 探究ゼミ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自ら課題を設定し、調査・分析に必要な知識や情報収集・整理の技能を身につける。	課題に対して論理的に考察し、適切な判断を行い、成果を多様な形で分かりやすく表現できる力を養う。	主体的に学びに向かい、他者と協働しながら自己を高める態度や、探究心・責任感を育む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の意義を理解し、自分の興味・関心を広げる視点を持つ。 ・興味関心に基づく具体的な探究テーマを設定し、計画的に進めるための探究計画書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス・テーマ案出し ・テーマ決定・計画作成 	【知識・技能】 課題に応じて必要な知識を収集・整理し、調査や分析に適切に活用できる。 【思考・判断・表現】 課題について論理的に考察し、成果をわかりやすく整理・表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究活動に積極的に取り組み、自ら課題解決に向けて粘り強く学び続ける。	○	○	○	15
	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいて主体的に調査・実験に取り組み、必要な情報を収集する技能を高める。 ・探究の進捗を整理し、中間発表を通して成果を他者に分かりやすく伝える力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・実験活動開始 ・中間発表・ブラッシュアップ 	【知識・技能】 課題に応じて必要な知識を収集・整理し、調査や分析に適切に活用できる。 【思考・判断・表現】 課題について論理的に考察し、成果をわかりやすく整理・表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究活動に積極的に取り組み、自ら課題解決に向けて粘り強く学び続ける。	○	○	○	15
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を整理・分析し、課題の深掘りや新たな視点を発見する力を育む。 ・まとめた成果を効果的に伝えるために、発表資料やレポートを論理的に構成する力を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果整理・分析) ・発表準備 	【知識・技能】 課題に応じて必要な知識を収集・整理し、調査や分析に適切に活用できる。 【思考・判断・表現】 課題について論理的に考察し、成果をわかりやすく整理・表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究活動に積極的に取り組み、自ら課題解決に向けて粘り強く学び続ける。	○	○	○	15
	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に理解されることを意識して、成果を的確に表現・発表する力を養う。 ・探究活動を振り返り、自己の成長を自覚し、次につなげる課題を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終発表会 ・成果レポート/振り返り 	【知識・技能】 課題に応じて必要な知識を収集・整理し、調査や分析に適切に活用できる。 【思考・判断・表現】 課題について論理的に考察し、成果をわかりやすく整理・表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究活動に積極的に取り組み、自ら課題解決に向けて粘り強く学び続ける。	○	○	○	15
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じた探究活動の発展や振り返りを行い、次の学びへの意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補足活動 	【知識・技能】 課題に応じて必要な知識を収集・整理し、調査や分析に適切に活用できる。 【思考・判断・表現】 課題について論理的に考察し、成果をわかりやすく整理・表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 探究活動に積極的に取り組み、自ら課題解決に向けて粘り強く学び続ける。	○	○	○	10
							合計